

平成25年度

事業報告書

社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団

平成25年度事業報告書目次

	ページ	
1. 概況	-----	1
2. 職員	-----	4
3. 組織	-----	6
4. 役員	-----	7
5. 会議等	-----	8
6. 研修	-----	11
7. 苦情解決処理状況	-----	12
8. 施設別事業実施の概要と評価		
(1) 秋田県北部老人福祉総合エリア	-----	13
(2) 秋田県中央地区老人福祉総合エリア	-----	17
(3) 秋田県南部老人福祉総合エリア	-----	20
(4) 秋田県高清水園	-----	28
(5) 秋田県心身障害者コロニー	-----	33
(6) 地域生活支援センターみずばやし	-----	39
(7) 秋田県阿桜園	-----	43
(8) やまばと園	-----	47
(9) 秋田県身体障害者更生訓練センター	-----	51
(10) 秋田県点字図書館	-----	55

1. 概況

(1) 指定管理への対応

① 県の第二期（平成23年度～27年度）指定管理への対応

県所管課と運営協議会を開催するなど連携を図り、適正な運営に努め、5箇所の指定管理施設（北部老人福祉総合エリア・中央地区老人福祉総合エリア・南部老人福祉総合エリアコミュニティセンター・同老人専用マンション・点字図書館）について、平成25年度の事業計画等を基本とし、概ね計画通り実施することができた。

② 横手市及び湯沢雄勝広域市町村圏組合の指定管理への対応

横手市（横手市大森町生きがい創作館）、湯沢雄勝広域市町村圏組合（やまばと園）の各指定管理施設については、指定管理者に指定され、平成26年度から平成30年度までの5年間、これまでに引き続いて運営することとなった。

(2) 県有施設の譲与及び貸付への対応

県健康福祉部と運営協議会を開催するなど連携を図り、適正な運営に努め、譲与された1施設（みずばやし）、無償貸付された6施設（高清水園・心身障害者コロニー・阿桜園・身体障害者更生訓練センター・南部老人福祉総合エリア養護老人ホーム・同軽費老人ホーム）について、県から財政基盤を強化する支援を受けながら、平成25年度の事業計画等を基本とし、概ね計画通り実施することができた。

(3) 5ヵ年（平成23年から27年度まで）経営改善計画への取り組み

平成23年3月に策定し、平成24年8月に一部改訂した経営改善計画を目標とし、将来の自立経営の確立に向け、各施設において目標値を設けて取り組んだ。

(4) 管理施設の運営状況

① 老人福祉総合エリアについて

3エリア協同による合同視察研修、ホームページのリニューアル・情報機能の充実、PR映像制作等の営業・広報戦略を行った。また、合同パンフレットを県内外の道の駅62か所に配布するなど、利用促進に努めた。

地域福祉推進活動として、県指定の「介護職員初任者研修（南部エリア）」や県社協共催の「福祉セミナー&進路ガイダンス（北部エリア・南部エリア）」等を実施した。

南部エリアの入居施設においては、利用者のニーズに基づいた個別支援計画の作成や利用者の状況に応じた介護保険サービス等の活用により、安全で快適な日常生活支援に努めた。

② 障害福祉施設について

サービス管理責任者のもと、個別支援計画の作成やモニタリング等の実施により、利用者支援の充実と向上を図りながら障害福祉サービスの提供に努めた。

高清水園ではケアホーム1棟を新たに開設し、地域生活移行支援の推進を図った。相談支援事業については、各施設に相談支援専門員を配置し、地域の障害者や家族等の相談支援業務（一般相談・計画相談・障害児相談）に取り組んだ。また、コロニーでは由利本荘市から障害者基幹相談支援センター事業を受託し、地域の総合的・一体的な相談支援体制づくりを行った。就労継続支援事業B型では、営業活動を展開しながら収入増を図り、工賃向上計画に基づき、利用者の工賃アップに努めた。

法人全体としては、18歳以上の児童施設の今後のあり方やグループホームの整備計画等について検討会を立ち上げ、一定の方向性や方針を定めた。また、「由利本荘地域生活支援総合センター（仮称）」設置に向け、県、市等関係機関と協議しながらその実現に向けた取組を進めた。

③ 施設維持管理等について

施設設備の修繕等について、高清水園マスシリンダー錠の交換、コロニー創生・银杏重度棟食堂及びディールームの畳区画のフローリング化、南部エリア養護・軽費老人ホームの空調設備取替工事等を行った。

また、北部エリア中庭円柱タイル張替、中央エリア屋内運動広場排煙窓修繕、南部エリアのコミセン・屋内プール空調換気扇及びサプライエネルギーセンター機械室内給湯設備改修、コロニー银杏重度棟冷温水発生機等について、県による改修工事が実施された。

（5）自主事業の取り組み

「由利本荘地域生活支援総合センター（仮称）」及び「知的障害者グループホーム・ケアホーム」の施設整備について、関係機関と連携しながら計画的に進めるための準備を行った。

地域密着型サービス外部評価事業については、前年度より評価実施件数が減少しているが、その要因は、評価実施要件の緩和などによるものである。

南部エリアにおける訪問介護事業等については、利用者はエリア入居者となっているが、需要は定着してきており、利用者ニーズへの的確な対応に努めた。

障害児（者）施設においては、共同生活援助事業（グループホーム）や共同生活介護事業（ケアホーム）に取り組み、障害者の地域生活支援の一層の推進に努めた。

事業名	利用状況（人数）	前年度利用状況（人数）
地域密着型サービス外部評価事業	55件	62件
居宅介護支援事業	833人	851人
訪問介護事業	9,443人	9,909人
共同生活援助事業	85人（18棟）	85人（18棟）
共同生活介護事業	87人（18棟）	83人（17棟）

注1）共同生活援助事業、共同生活介護事業は定員。

（6）サービスの向上

ISO9001に準じた当事業団独自の「ハイクオリティサービス推進システム」（通称「まごころシステム」）について、引き続きシステムの継続的改善（PDCA）の運用を推進し、支援サービスの質の維持と向上及び良質かつ適切な福祉サービスの提供に努めた。

また、緊急時の予防・対応マニュアルに基づく備蓄資機材等の整備については、大規模災害を踏まえた対応を想定して充実に努めた。また、非常時・緊急時等のメール斉送信システムを活用した緊急時の連絡体制を新たに整備した。

（7）人材育成

研修体系に基づき、法人内、施設内、法人外研修の実施に積極的に取り組み、人材育成と職員の一層の資質向上を図った。法人内研修においては、支援職員を対象とした介護技術習得研修や、サービス管理責任者及び地域生活支援担当職員を対象とした業務別研修を行いスキルアップを図った。

また、試行的に行っている人事考課の対象職員を主査以上に拡大して実施した。

（8）職員採用

正職員の年齢構成の平準化とキャリア育成、業務内容の継承等を見据え、職員採用計画に基づき、公募により、福祉職11名、看護師2名、栄養士1名、ボイラー技師1名、電気技師1名を平成26年4月1日付けで採用した。

（9）社会貢献

社会貢献のひとつの活動として、昨年度に引き続き、東日本大震災の被災地において、2回のボランティア活動を実施した。

この活動については、今後も継続を検討していくとともに、被災地における施設への職員派遣などを含めて社会福祉法人として更なる取組を目指して検討を加えていくものとする。

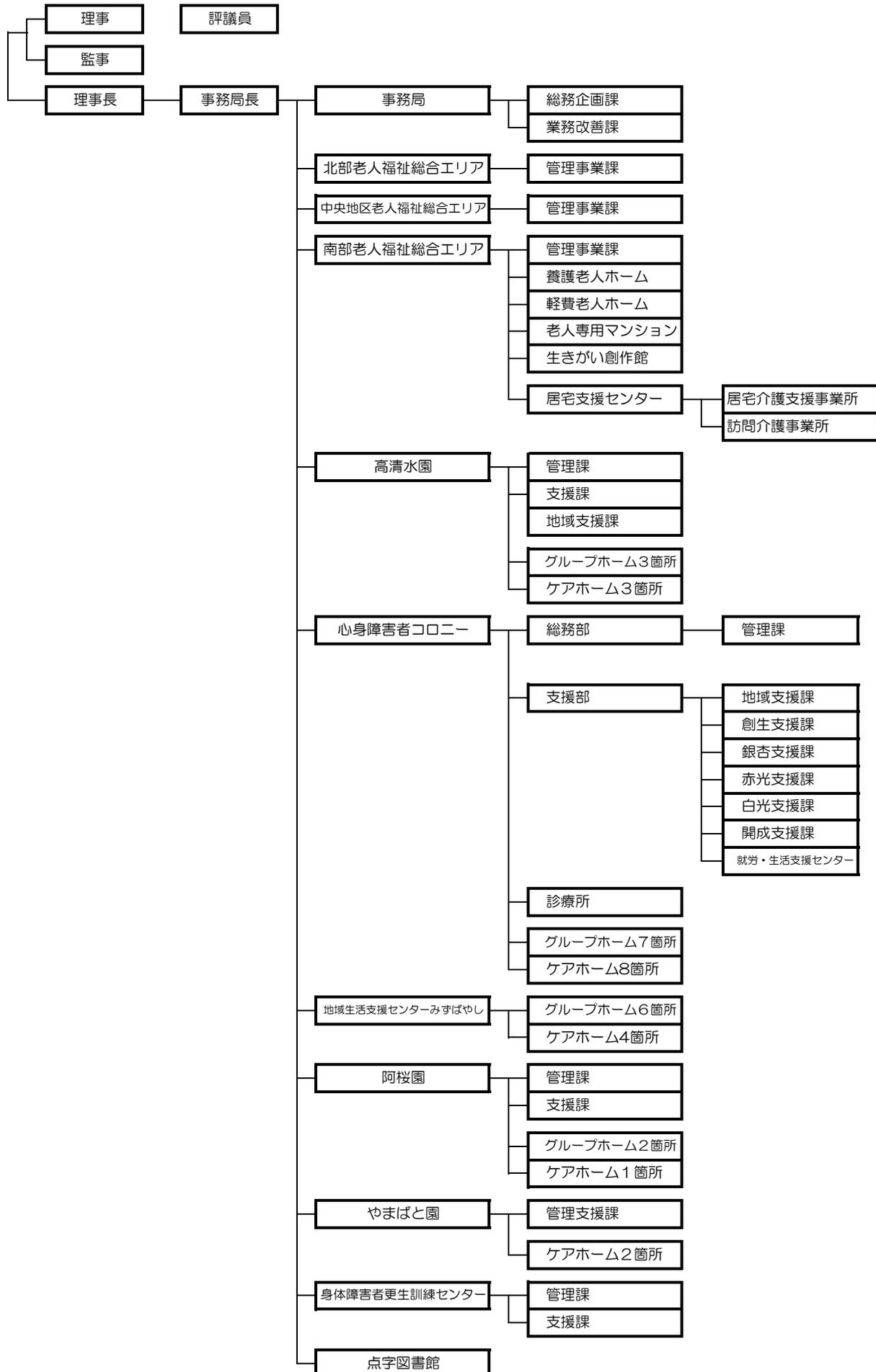
施設一覽

平成26年3月31日現在

施設名	施設種別	所在地		定員(人)
秋田県北部老人福祉総合エリア	利用施設	大館市十二所字平内新田237-1	H11. 8. 1	宿泊定員 50
秋田県中央地区老人福祉総合エリア	利用施設	秋田市御所野下堤5丁目1-1	H 9. 8. 1	宿泊定員116
秋田県南部老人福祉総合エリア			S63. 7. 1	
コミュニティセンター	利用施設	横手市大森町字菅生田245-34	(S63. 7. 1)	宿泊定員 58
養護老人ホーム	老人福祉施設		(H 1. 2. 1)	50
軽費老人ホーム	老人福祉施設		(H 2. 7. 1)	50
老人専用マンション	利用施設		(H 3.10. 1)	24
横手市大森町生きがい創作館	利用施設		(S64. 1. 4)	—
指定居宅介護支援事業所	介護サービス事業所		(H 18. 4. 1)	—
指定訪問介護事業所	介護サービス事業所		(H 18. 4. 1)	—
秋田県高清水園	障害者支援施設 知的障害児施設	秋田市上北手猿田字苗代沢14-1	H 9. 4. 1	60
			H 9. 4. 1	40
グループホーム「結」	知的障害者グループホーム	秋田市広面字碓21-9	H14.10.1	5
グループホーム「みのり」	知的障害者グループホーム	秋田市広面字鬼頭109-3	H16.11.1	5
グループホーム「さくら」	知的障害者グループホーム	秋田市桜4丁目18-21	H18.5.1	4
ケアホーム「あおぞら」	知的障害者ケアホーム	秋田市上北手百崎字境田30	H20.4.1	6
ケアホーム「彩」	知的障害者ケアホーム	秋田市横森5丁目10-24	H21.4.1	5
ケアホーム「こまち」	知的障害者ケアホーム	秋田市仁井田二ツ屋二丁目12番42号	H25.10.1	6
秋田県心身障害者コロニー			S46. 4. 1	
創生支援課	障害者支援施設	由利本荘市西目町出戸字孫七山3-2	(S46. 5. 1)	100
銀杏支援課	障害者支援施設		(S47. 4. 1)	100
赤光支援課	障害者支援施設		(S48. 5. 1)	100
白光支援課	障害者支援施設		(S49. 1. 1)	100
開成支援課	障害者支援施設		(S49. 6. 1)	50
開成支援課	障害者支援施設		(S49. 6. 1)	50
診療所	診療所		(S49. 6. 1)	—
グループホーム「わかまつ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下679-8	H11.10. 1	6
グループホーム「やすらぎ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町出戸字浜山3-183	H12.10.1	6
グループホーム「そよかぜ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下2-92	H13.10.1	4
グループホーム「わかば」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字西潟346-14	H16.2.1	4
グループホーム「はまなす」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下2-697	H17.4.1	4
グループホーム「まつかぜ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町沼田字新道下2-415	H21.11.1	6
グループホーム「しおさい」	知的障害者グループホーム	由利本荘市西目町出戸字浜山3-119	H23.4.1	5
ケアホーム「あおぞら」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町沼田字西潟315-4	H13.10.1	4
ケアホーム「お月森」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町海土剱字海土剱下52-48	H16.4.1	5
ケアホーム「ひだまり」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町海土剱字海土剱下57-1	H16.4.1	5
ケアホーム「やまと」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町沼田新道下744-7	H24.1.1	4
ケアホーム「なでしこA」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町海土剱字海土剱57-1	H24.1.1	4
ケアホーム「なでしこB」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町海土剱字海土剱57-1	H24.1.1	5
ケアホーム「かもめ」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町出戸字浜山3-223	H24.9.1	5
ケアホーム「はまやま」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市西目町出戸字浜山3-261	H25.3.1	5
地域生活支援センターみずばやし	障害福祉サービス事業所	由利本荘市調練場1-1	H24.1.1	30
グループホーム「翼」	知的障害者グループホーム	由利本荘市薬師堂字山崎145-7	H 2. 4. 1	4
グループホーム「清和」	知的障害者グループホーム	由利本荘市石脇字田尻野31-8	H 4. 4. 1	5
グループホーム「めぐみ」	知的障害者グループホーム	由利本荘市水林402-22	H 7. 4. 1	5
グループホーム「朋」	知的障害者グループホーム	由利本荘市出戸町字赤沼下道36-18	H11.10. 1	5
グループホーム「虹」	知的障害者グループホーム	由利本荘市石脇字田尻28-20	H23.7.1	4
グループホーム「そら」	知的障害者グループホーム	由利本荘市御門1番地2	H23.12.1	5
ケアホーム「三愛A」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市薬師堂字二本木44-2	H13.10.1	5
ケアホーム「三愛B」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市薬師堂字二本木44-2	H13.10.1	5
ケアホーム「菖蒲」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市給人町70-5	H 9.10. 1	5
ケアホーム「若菜」	知的障害者ケアホーム	由利本荘市水林365	H12.10.1	5
秋田県阿桜園	障害者支援施設 知的障害児施設	横手市赤坂字仁坂105	H 2. 4. 1	70
			S39.4.25	50
グループホーム「希望」	知的障害者グループホーム	横手市婦気大堤字南巻114	H 6. 4. 1	4
グループホーム「あさひ」	知的障害者グループホーム	横手市朝日が丘3丁目4-1	H16.1.15	4
ケアホーム「あざみ」	知的障害者ケアホーム	横手市婦気大堤字平林1-104	H23.4.1	5
湯沢雄勝広域市町村圏組合	障害者支援施設	湯沢市三梨町字飯田二ツ森43	H15.4.1	50
やまばと園	知的障害児施設		S49.10. 1	10
ケアホーム「ぼってりー」	知的障害者ケアホーム		湯沢市湯ノ原2丁目6-31	H 21. 4. 1
ケアホーム「のどか」	知的障害者ケアホーム	湯沢市荒町7-2	H 23. 4. 1	5
秋田県身体障害者更生訓練センター	障害者支援施設	秋田市新屋下川原町2-3	S55. 7. 1	60
秋田県点字図書館	視聴覚障害者 情報提供施設	秋田市土崎港南3丁目2-58	S60. 4. 1	—

3. 組織

平成26年3月31日現在



4. 役員

(1) 平成25年度の役員体制

(平成25年6月1日現在)

役職名	氏名	現(元)職名
理事長	武田哲也	前秋田県秋田地域振興局長
理事	柴田一宏	柴田一宏法律事務所長
理事	太田春海	秋田県民生児童委員協議会会長
理事	内海淳	秋田大学教育文化学部教授
理事	高橋豊	社会福祉法人秋田県社会福祉協議会常務理事
理事	梅井一彦	秋田県健康福祉部長
理事	三浦洋	秋田県心身障害者コロニー管理者
監事	前田正人	前田公認会計士事務所長
監事	田中政博	元秋田市財政部長

(2) 平成25年度の評議員体制

(平成25年6月1日現在)

役職名	氏名	現(元)職名
評議員	遠藤博之	地方独立行政法人秋田県立療育機構理事長
評議員	榎本義孝	財団法人秋田県老人クラブ連合会会長
評議員	伊藤英紀	社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会会長
評議員	谷内和夫	公益社団法人秋田県手をつなぐ育成会会長
評議員	渡辺久子	社会福祉法人秋田けやき会 ケアハウスウエルハウス御所野施設長
評議員	佐藤良吉	横手市副市長
評議員	烏トキエ	公益社団法人秋田県看護協会会長
評議員	石川裕	由利本荘市副市長
評議員	柴田博	秋田看護福祉大学福祉学科教授
評議員	中村信弘	秋田県高等学校長協会特別支援学校部会長
評議員	田沼昭男	秋田県社会福祉法人経営者協議会会長
評議員	金子治生	秋田県健康福祉部福祉政策課長
評議員	高橋美岐子	日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科長
評議員	佐藤善五郎	前秋田県高清水園親の会会長
評議員	和田士郎	秋田県高清水園長

5. 会議等

(1) 評議員会

開催年月日	会場等	付議事項	てん末
平成25年 5月23日	中央地区老人福祉総合エリア研修室	1 平成24年度事業報告及び決算について 2 役員の選任について	同意 同意
平成25年11月 1日	中央地区老人福祉総合エリア多目的ホール	1 平成25年度補正予算(案)について	同意
平成26年 3月17日	中央地区老人福祉総合エリア多目的ホール	1 秋田県社会福祉事業団定款の一部改正について 2 秋田県社会福祉事業団組織規則の一部改正について 3 秋田県社会福祉事業団事務決裁規則の一部改正について 4 秋田県社会福祉事業団職員就業規則の一部改正について 5 秋田県社会福祉事業団職員給与規則の一部改正について 6 秋田県社会福祉事業団の育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 7 秋田県社会福祉事業団准職員就業規則の一部改正について 8 秋田県社会福祉事業団会計規則の一部改正について 9 平成25年度補正予算(案)について 10 平成26年度事業計画(案)及び当初予算(案)について	同意 同意 同意 同意 同意 同意 同意 同意 同意 同意

(2) 理事会

開催年月日	会場等	付議事項	てん末
平成25年 4月 1日	中央地区老人福祉総合エリア視聴覚室	1 理事長の互選について	承認
平成25年 5月24日	中央地区老人福祉総合エリア研修室	1 平成24年度事業報告及び決算(案)の認定について 2 評議員の選定について 3 役員の選任について	認定 同意 同意
平成25年11月 7日	秋田県社会福祉会館 第4会議室	1 平成25年度補正予算(案)について	同意
平成26年 3月20日	中央地区老人福祉総合エリア研修室	1 秋田県社会福祉事業団定款の一部改正について 2 秋田県社会福祉事業団組織規則の一部改正について 3 秋田県社会福祉事業団事務決裁規則の一部改正について 4 秋田県社会福祉事業団職員就業規則の一部改正について 5 秋田県社会福祉事業団職員給与規則の一部改正について 6 秋田県社会福祉事業団育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 7 秋田県社会福祉事業団准職員就業規則の一部改正について 8 秋田県社会福祉事業団会計規則の一部改正について 9 平成25年度補正予算(案)について 10 平成26年度事業計画(案)及び当初予算(案)について 11 評議員の選任について 12 施設長の任命について	同意 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 同意 同意 同意 承認

(3) 監事の監査

開催年月日	会場等	付議事項
平成25年 5月 9日 5月10日	中央地区老人福祉 総合エリア研修室	平成24年度事業の執行状況及び収支決算状況について
平成25年11月28日	秋田テルサ視聴覚室	新社会福祉法人会計の基礎について

(4) 施設長会議

開催年月日	会場等	付議事項
平成25年 4月 9日	中央地区老人福祉総合エリア 研修室	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成25年度事業計画について 2 理事長・事務局長等の施設訪問について 3 平成25年度に指定管理期間満了をむかえる施設等について 4 その他
平成25年 5月21日	中央地区老人福祉総合エリア 研修室	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成25年度第1回評議員会・第2回理事会議案関係について 2 監事監査の指導助言事項等について 3 平成25年度予算執行関係について 4 利用者の安全を確保する取り組みの徹底について 5 支出予算の流用について 6 平成25年度各施設重点事項について 7 就業規則における勤務時間の遵守について 8 准職員任用通知書の記載事項について 9 各施設非常用資機材・備蓄食料等の整備状況について 10 非常時・緊急時等メール一斉送信システムについて 11 平成25年度(24年度分)経営改善計画評価報告会日程について 12 岩手県被災地支援ボランティア活動について 13 その他
平成25年10月21日	中央地区老人福祉総合エリア 大広間	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成25年度補正予算書(案)について 2 知的障害者グループホーム・ケアホームの整備計画について 3 「由利本荘市地域生活支援総合センター(仮称)」の整備計画について 4 指定障害児入所施設(18歳以上の者が入所している場合)の今後のあり方について 5 秋田県身体障害者更生訓練センターの今後のあり方について 6 資金管理について 7 厚生年金の支給開始年齢の引上げに係る対応について 8 平成25年度第1回県出資法人職員共同採用試験応募状況について 9 非常時・緊急時等メール一斉送信システム送受信訓練状況について 10 東日本大震災被災地支援ボランティア活動報告等について 11 平成25年度内部経理監査結果等について 12 平成26年度人事異動方針及びヒアリング日程について 13 平成24年度職員提案進捗状況について 14 公益活動を推進する各種団体等の助成事業の活用について 15 各施設内の防火扉の緊急点検について 16 「職員の給与等に関する報告及び勧告の概要(平成25年10月11日秋田県人事委員会)」について 17 その他

開催年月日	会場等	付議事項
平成25年12月18日	中央地区老人福祉総合エリア 視聴覚室	<ol style="list-style-type: none"> 1 秋田県人事委員会の勧告（平成25年10月11日付け「職員の給与等に関する報告及び勧告」）にかかる事業団の対応について 2 宿日直勤務と労働基準法の適合にかかる実態確認と適正措置について 3 地域貢献活動・社会貢献活動への取り組みについて 4 施設等整備推進担当者の配置について 5 平成26年度当初予算・平成25年度補正予算について 6 平成25年度各施設重点事項の進捗状況について 7 平成25年度職員提案及び24年度職員提案進捗状況について 8 平成25年度第1回共同採用試験事業団職員採用試験状況について 9 秋田県社会福祉事業団資金運用方針について 10 秋田県社会福祉事業団定年退職者継続雇用取扱要綱について 11 障害者総合支援法における平成26年4月1日施行事項に関する対応準備型について 12 その他
平成26年 3月 6日	中央地区老人福祉総合エリア 研修室	<ol style="list-style-type: none"> 1 秋田県人事委員会の勧告（平成25年10月11日付け「職員の給与等に関する報告及び勧告」）にかかる事業団の対応について 2 秋田県社会福祉事業団第3回評議員会・第4回理事会議案等について 3 平成25年度補正予算・平成26年度当初予算（案）について 4 地域貢献活動・社会貢献活動への取り組みについて 5 「由利本荘市地域生活支援総合センター（仮称）」及び「知的障害者グループホーム・ケアホーム」の整備計画について 6 平成26年度職員研修計画について 7 宿日直勤務の措置状況について 8 准職員の退職金手当の取扱について 9 障害者雇用（就労支援）について 10 消費税改定による利用料金等の見直しについて 11 障害者総合支援法における平成26年4月1日施行事項（用語の見直し等）にかかる対応準備方について 12 平成26年4月1日付け新規採用者数について 13 評議員会について 14 理事会について 15 退職者辞令交付式について 16 定期人事異動（課長職以上）・新規採用職員辞令交付式について 17 その他

6. 研修

(1) 主な施設内研修

- ・ 新任・転任職員研修
- ・ 接遇研修
- ・ 救急救命講習（AED講習を含む）
- ・ OJT研修
- ・ 感染症予防研修
- ・ ハイクオリティサービス推進システム研修
- ・ 各種支援技術取得研修
- ・ 施設見学、施設体験研修
- ・ パソコンスキルアップ研修
- ・ 3エリア合同視察研修
- ・ 関係施設等視察研修（障害・老人）
- ・ サービス管理責任者研修
- ・ 不審者対応研修
- ・ 防災意識啓発講座
- ・ 認知症研修
- ・ メンタルヘルス研修
- ・ 権利擁護研修
- ・ 虐待防止研修
- ・ 自動車スキッド講習
- ・ 発電機作動訓練
- ・ 育児・介護休業等復帰職員研修
- ・ クレーム対応力について
- ・ 自閉症の基礎的理解について
- ・ 福祉用具の取扱いについて
- ・ ターミナルケアについて学ぶ
- ・ 高齢者の食事について
- ・ 歯磨き支援方法・歯周病について

(2) 主な事業団内研修

- ・ 階層別研修Ⅰ（新任職員研修）
- ・ 階層別研修Ⅲ～Ⅵ（人事考課研修）
- ・ 階層別研修Ⅲ～Ⅵ（施設経営・管理研修）
- ・ 能力開発研修Ⅰ～Ⅵ（介護技術習得研修）
- ・ 能力開発研修Ⅳ～Ⅵ（ハイクオリティサービス内部監査員研修）
- ・ 能力開発研修Ⅱ～Ⅳ（事務担当職員研修）
- ・ 能力開発研修Ⅱ～Ⅳ（サービス管理責任者研修）
- ・ 能力開発研修Ⅰ～Ⅲ（地域生活支援職員研修）

(3) 主な事業団外研修

- ・ 全国社会福祉事業団協議会中央研修
- ・ 全国グループホーム・ケアホーム等研修会
- ・ 北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修
- ・ 東北地区知的障害者福祉協会施設長連絡協議会
- ・ 東北地区知的障害者福祉協会施設職員研究協議会
- ・ 施設給食担当職員研修
- ・ 福祉保健施設・事業者等職員新任研修
- ・ 福祉保健施設・事業者等職員中堅研修
- ・ 秋田県サービス管理責任者研修
- ・ 相談支援従事者研修
- ・ 障害者虐待防止・権利擁護研修

7. 苦情解決処理状況

(1) 過去5年間における苦情件数の推移

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
件 数	98	70	49	39	46

(2) 平成25年度施設別件数

	(職員の サービスの 内容等)	(サー ビスの 質・量)	説 明・ 情報 提供	施 設・ 設 備	制 度・ 政 策	金 銭	被 害・ 損 害	権 利 侵 害	そ の 他	計	(継 続中 の件 数)
北部老人福祉総合エリア										0	0
中央地区老人福祉総合エリア	1									1	0
南部老人福祉総合エリア				4					4	8	0
高清水園	4	4	3	1			1			13	0
心身障害者コロニー	2		2				1	2	3	10	0
みずばやし									2	2	0
阿桜園		1								1	0
やまばと園	1									1	0
身体障害者更生訓練センター	2	2						1	5	10	0
点字図書館										0	0
計	10	7	5	5	0	0	2	3	14	46	0

(3) 平成25年度苦情の主な内容

	内容の分類	件数	割合	内 容	例
利用施設	サービス内容 (職員の接客等)	1	100%	職員の接客に関する事	利用者に対する職員の言葉づかいが不適切だった。 → 統一した対応をするように職員に注意喚起する。
障害施設・老人施設	サービス内容 (職員の接客等)	9	22%	利用者支援に関する事	見守りが不十分であり、利用者が行方不明になった。 → マニュアルを改正し、職員間で周知徹底を図る。
	サービス内容 (サービスの質と量)	7	16%	各種手続きについて	市町村へ利用者に係る届出書類の提出が遅れた。 → 職員間で周知徹底を図り、再発防止に努める。
	説明・情報提供	5	11%	利用者支援に係る報告に関する事	利用者の不穏時対応が一部不適切だった。 → 職員間で支援方法について周知徹底を図る。
	施設・設備	5	11%	施設設備の故障に関する事	施設玄関のインターホーンが故障していた。 → 機器を取り換え、再発防止に努める。
	その他	14	31%	利用者間のトラブルに関する事	特定の利用者が施設の共有スペースを独占している。 → 利用者にも内容を説明し改善を図る。

※上段は申出、下段は解決の内容

8. 施設別事業実施の概要と評価

(1) 秋田県北部老人福祉総合エリア

○施設運営の概要

1) 営業活動の強化

3エリア会議を通じた一体的な営業・広報戦略として、合同の視察研修、ホームページのリニューアル・情報機能の充実、PR映像の制作・営業活動を行った。また、大館市生涯学習課・中央公民館等に会場使用の割引企画をもとに広報活動を行った。

2) 事業活動の拡充

①リピーターの確保対策

これまで同様、優待デー（シルバー・デー、レディース・デー、メンズ・デー）を継続し、休憩（入浴）の一般利用料金を600円から500円に割引することにより料金面での利用しやすさをアピールした。

10月には、3エリア初の合同企画した「秋の祭典」を開催した。秋田ノーザンハピネッツによるバスケットボール講習会や北都銀行バドミントン部による講習会をメインに様々な催しを行い、盛会裏に終えることができた。

3月には、学校の春休み期間に合わせ「お客様感謝祭」を開催。芸能ステージ、ゆるキャラ着ぐるみ等の企画に加え、地域の病院・商店・自治会等の協力を得た各種企画により、多くの来場者で賑った。とりわけ、地元のパン製造会社と陽気な母さんの店がコラボ制作したハンバーガーは、職員が企画したもので、新聞各紙に掲載されるなどイベント成功の大きな役割を担った。

②小・中・高校などへの事業展開

県社会福祉協議会と共催により、恒例となった進路ガイダンス・高校生福祉セミナーを開催し、7校24名の参加が得られ、地域福祉活動の推進に努めることができた。また、前年度に引き続き、北鹿地域の小学校への出張スポーツ体験を実施し、10件461名の参加を得た。

③生きがい活動支援の各種教室及び健康推進事業

木工、陶芸、園芸、茶道等の教室は、延べ299回（1,610人）の開催となった。また、健康づくり事業は、ユニカール、グラウンドゴルフ、バドミントン、ラージボール卓球等の交流会及び大会を開催した。

○世代間交流及び利用の促進

1) 施設利用状況

平成25年度の北部エリア総利用者数は76,911人で、前年度比7.3%減、068人の減となった。内訳として有料部門では、全体で3,991人減の40,010人の利用。休憩（入浴）は、2,195人減の27,486人となった。宿泊は、230人減の2,574人、テニスコートは、487人減の1,045人であった。

無料部門は、2,077人減の36,901人となっている。

「県の記念日」「敬老の日」には、休憩（入浴）・テニスコートの無料開放を行い、エリア機能・事業内容等の周知を図るとともに更なる利用の拡大に努めた。

2) 世代間交流

恒例となった保育園児と老人クラブの方々によるサツマイモの苗植えと収穫作業を実施し、更なる交流を深めた。

3) 子育て支援

子育て支援に関連する取り組みとして整備した『キッズコーナー』は、秋田県から「こどものえき」の認定を受け、授乳室やおむつ交換台も揃っている施設として情報誌等でも取り上げられ、多くの親子連れで賑った。

4) 利用しやすい施設づくり・その他

大館市社会福祉協議会主催の大館ボランティアフェスティバル（2,800人の参加）が、北部エリアを会場に継続開催され積極的に協力した。

○3エリア会議の充実

定期的な3エリア会議に加え、営業職員間の情報交換や企画等に係る会議を随時開催し、3エリア相互の事業や方針等の連絡調整と情報伝達に努め、相互の共通認識のもとで活動する基礎づくりを行った。

○職員の資質向上

前年度に続き、コミュニケーション技術・ビジネスマナーの基本を学ぶことを習慣づけることが職場の風通しを良くし、リピーターの確保につながる最短で最良の方法と考え、3エリア合同で専門講師を招聘し講習を実施した。毎朝実施している、全職員によるマナーのポイントや挨拶の唱和は2年目を迎えた。

○設備の修繕・環境整備等

1) 修繕・更新

利用者の安全安心と快適な環境づくりのため、館内の消防設備の修繕や宿泊室等の畳替え・障子張替え等設備の維持に努めた。

秋田県による設備修繕としては、中庭円柱タイル改修工事が行われ、より安心と快適な施設利用に向け改修された。

2) 環境整備

市道に張り出した樹木（ケヤキ等）の枝払いや倒木の処理などを行い、運行車両や屋外運動広場周辺の散歩・ランニング等で活用する方々が安全かつ快適に利用できる環境づくりに努めた。

○衛生・安全対策

隣接の養護老人ホーム成章園の協力を得て、感染症防止研修を開催し、予防策や館内での嘔吐等があった場合の処理技術を学んだ。このほか、年2回の総合防災訓練を実施し、防災体制の確立と意識の高揚に努めた。

○苦情解決処理状況

要綱に当てはまる苦情案件は無く、10月と3月に行われた苦情解決委員会では、顧客満足度調査時の意見・要望とそれに対する回答と処置について報告を行い、助言等を基に引き続き円滑な苦情解決とサービス提供に資することとした。

平成25年度北部老人福祉総合エリア利用状況

1. コミュニティセンター等利用状況

※単位 ; 人

区 分		年 間 合 計 (人)		比較増減
		平成25年度	平成24年度	
有 料	休 憩	27,486	29,681	△ 2,195
	宿 泊	2,574	2,804	△ 230
	会 議 室 等	4,525	4,722	△ 197
	屋内運動広場	2,750	3,304	△ 554
	茶 室	20	40	△ 20
	テニスコート	1,045	1,532	△ 487
	自主企画事業	1,610	1,918	△ 308
小 計		40,010	44,001	△ 3,991
無 料	屋内運動広場	26,476	27,061	△ 585
	屋外運動施設等	47	463	△ 416
	自主企画事業	10,242	11,164	△ 922
	視 察 等	136	290	△ 154
	小 計	36,901	38,978	△ 2,077
合 計		76,911	82,979	△ 6,068

2. 各種自主企画事業利用状況

※単位 ; 人 ()内は開催回数

区 分		平成25年度	平成24年度	比較増減
生 活 活 動	陶 芸	876 (125)	1169 (123)	△ 293 (2)
	木 工	489 (143)	467 (148)	22 (△ 5)
	園 芸	103 (18)	116 (16)	△ 13 (2)
	茶 道	136 (12)	141 (12)	△ 5 (0)
	その他の教室	6 (1)	25 (3)	△ 19 (△ 2)
	小 計	1,610 (299)	1,918 (302)	△ 308 (△ 3)

区 分		平成25年度	平成24年度	比較増減
健康 づくり	スポーツ大会等	1,093 (18)	1,262 (20)	△ 169 (△ 2)
	小 計	1,093 (18)	1,262 (20)	△ 169 (△ 2)
交流 活動	交流イベント等	3,716 (22)	4,035 (21)	△ 319 (1)
	小 計	3,716 (22)	4,035 (21)	△ 319 (1)
そ の 他	映 写 会	3,428 (164)	3,716 (160)	△ 288 (4)
	無 料 開 放	297 (2)	485 (2)	△ 188 (0)
	ポイントカード等	1,708 (1,708)	1,666 (1,666)	42 (42)
	小 計	5,433 (1,874)	5,867 (1,828)	△ 434 (46)
合 計		10,242 (1,914)	11,164 (1,869)	△ 922 (45)

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位;人

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
コミュニティセンター利用者数	91,655	84,914	79,425	82,979	76,911

(2) 秋田県中央地区老人福祉総合エリア

○施設運営の概要

1) 営業活動の強化

平成25年度は、3エリア協同での秋田駅東西連絡通路の電飾広告や秋田観光連盟への加入、ウェブサイト秋田観光総合ガイドと秋田県スポーツ情報ステーションへの情報提供など新たな媒体を使った広報活動に取り組み、利用の促進に努めた。このほか3エリア合同パンフレットを各エリアで分担し、県外の道の駅32カ所、県内30カ所に設置するなど県内外に向けた広報活動を行った。

また、HPをリニューアルし、宿泊室のほか会議研修室等の空室状況を確認できるように最新の情報発信に努め、団体誘客に向けたPR映像の作成に取り組んだ。

2) 事業活動の拡充

世代間交流事業として、「エリア秋の感謝祭」と題したイベントを開催し、縁日・出店コーナー、教室の体験コーナーや民謡ショー、ダンスフェスタ、スポーツクリニックなどの多彩な催し物で来館者から好評を得ることができた。また、当日は休憩（入浴）の半額割引を実施し、サービスの向上を図り利用の促進に努めた。

新規事業として、「笑い与健康トークショー」「ミニテニス交流大会」を開催し、高齢者の生きがいと健康増進を支援した。笑い与健康トークショーには60名の観覧者があり講師の話に会場が笑いに包まれ、ミニテニス交流大会には50歳から80歳代までの114人が出場し熱戦を繰り広げた。今後も開催を望む声が多く聞かれたことから次年度は定期的な開催することとした。

プールを活用した秋田市から受託の介護予防事業の「はつらつくらぶ」については、833人の利用があり、利用者から好評を得ている。

生きがい活動の支援として、陶芸、茶道、太極拳、ボールエクササイズ等の教室を継続開催したほか、一部教室については定員割れ等の理由により利用者の自主サークル活動への移行やフラワーアレンジメント教室及びフラダンス教室を新たに開催するなど見直しを図った。また、夏・冬休みには親子体験（陶芸・七宝焼）教室を開催した。

3) 施設整備

平成25年度の修繕工事として屋内運動広場排煙窓修繕更新工事を実施し、工事期間の2週間屋内運動広場を休業としたほか、前年度造成工事を実施したグラウンドゴルフ場は芝生の養生のため年度内を使用中止とした。

○世代間交流及び利用の促進

総利用者数は、156,515人で前年度比18,563人の増となった。

有料部門では、前年度比17,593人増の135,909人、無料部門が、970人増の20,606人とそれぞれ増となった。

いずれも大規模修繕による長期にわたる休業もなく、通年営業できたことによるものとなっている。有料部門の内訳として、休憩（入浴）が、6,375人増の44,585人、宿泊は784人増の3,455人、そのほかプール利用が、5,723人の増、会議室等が2,303人の増となっている。屋内運動広場については過去最高の14,160人となっており、今後も需要が見込まれる部門である。

ふれあい農園を利用した世代間交流事業では、保育園児とエリア入居者、地域住民の方々によるサツマイモの苗植え・収穫作業を実施し、延べ211名の参加があり交流を深めた。

生きがい・健康づくりの各教室は年間351回開催し、4,221人の参加があった。

「県の記念日」「敬老の日」に休憩（入浴）とプールの無料開放を行い、延べ797人の利用があり、施設のPRとともに利用の促進に努めた。

サービス改善として、12月から2月までの休憩（入浴）の夕方割引開始時間を16時から15時とするサービスを実施したところ、利用者から好評をいただき利用率も向上したことから、3月以降も継続して15時から夕方割引を利用できるサービスを実施した。

このほか、スポーツ団体等の宿泊対応を図るため、現行の宿泊定員60名から116名に定員を変更した。

○衛生・安全対策

防災関係では、事業計画に基づき年2回の総合防災訓練を実施したほか、部分訓練として一人勤務時の火災報知器の対応についての個別訓練を実施し、防災体制の確立と意識の高揚に努めた。また、救急対応については、普通救命講習を定期的に受講しAED操作等の技能の保持に努めた。

プール・浴場の衛生管理としてレジオネラ属菌等の検査を実施するとともに、関係設備の清掃及び洗浄消毒等を行い衛生管理の徹底に努めた。

○苦情解決処理状況

平成25年度の苦情処理状況として、職員の接遇に関することが1件となっている。寄せられた意見については、職員に周知を図るとともに協議のうえ回答を館内掲示した。また、第三者委員への報告を年2回行い、対応についての指導・助言を得ている。

平成25年度中央地区老人福祉総合エリア利用状況

1. コミュニティセンター等利用状況

※単位 ; 人

区分	年間合計(人)		比較増減	
	平成25年度	平成24年度		
有料	休憩	44,585	38,210	6,375
	宿泊	3,455	2,671	784
	会議室等	29,379	27,076	2,303
	屋内運動広場	14,160	11,325	2,835
	陶芸室等	2,022	1,593	429
	プール	37,266	31,543	5,723
	休憩&プールセット	821	597	224
	各種自主事業等	4,221	5,301	△ 1,080
	小計	135,909	118,316	17,593
無料	屋内運動広場	17,268	16,340	928
	屋外運動施設等	211	765	△ 554
	各種自主事業等	2,802	2,435	367
	視察等	325	96	229
	小計	20,606	19,636	970
合計	156,515	137,952	18,563	

※プール利用人数には水泳教室参加者5,024人含む

2. 各種自主事業等利用状況

※単位 ; 人 ()内は開催回数

区分	平成25年度	平成24年度	比較増減	
生きがい活動	木工	0 (0)	280 (58)	△ 280 (△ 58)
	陶芸	697 (96)	939 (96)	△ 242 (0)
	銀粘土	0 (0)	111 (24)	△ 111 (△ 24)
	華道	65 (12)	132 (24)	△ 67 (△ 12)
	茶道	185 (24)	199 (24)	△ 14 (0)
	編み物	55 (12)	108 (24)	△ 53 (△ 12)
	俳句	64 (6)	121 (12)	△ 57 (△ 6)
	その他の教室	246 (18)	173 (12)	73 (6)
	小計	1,312 (168)	2,063 (274)	△ 751 (△ 106)
健康づくり活動	太極拳	1,062 (72)	947 (36)	115 (36)
	ボールEX	394 (32)	377 (32)	17 (0)
	はつらつクラブ事業	833 (36)	850 (36)	△ 17 (0)
	体育教室	329 (30)	729 (52)	△ 400 (△ 22)
	水泳教室(外部施設)	0 (0)	335 (59)	△ 335 (△ 59)
	フラダンス	22 (11)	0 (0)	0 (0)
	健康づくり事業	269 (2)	0 (0)	0 (0)
	小計	2,909 (183)	3,238 (215)	△ 620 (△ 45)
合計	4,221 (351)	5,301 (489)	△ 1,080 (△ 138)	

健康	有料	水泳教室	5,024 (619)	4,416 (529)	608 (90)
合計			5,024 (619)	4,416 (529)	608 (90)

区分	平成25年度	平成24年度	比較増減	
その他	映写会	705 (71)	756 (69)	△ 51 (2)
	ポイントカード	240 (240)	230 (230)	10 (10)
	無料開放等	1,379 (2)	1,090 (2)	289 (0)
	ボランティアルーム	478 (33)	359 (31)	119 (2)
合計	2,802 (346)	2,435 (332)	367 (14)	

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位;人

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
コミュニティセンター利用者数	155,016	139,779	147,801	137,952	156,515

(3) 秋田県南部老人福祉総合エリア

○ 施設運営の概要

1) 営業活動の強化

営業活動については、営業・広報担当の連携強化に努めエリアの機能や利用施設について積極的な広報活動に努めた。その結果、老人クラブ、生き生きサロン等で43件、859人の利用があった。毎月のお知らせの工夫、広報誌・地方紙等へ掲載し利用促進に努めた。また、定期バスのPRに努め、戸別訪問のほか広報誌に掲載して利用促進を図り、7人の新規利用につながった。(登録者は全体で39人)

大仙市・横手市方面を対象に、ポスティングによるチラシ配布(11回2,012枚)を行い、広報活動に努めた。チラシの内容としては、定期バスの利用の他、リハビリ健康教室の案内や年末年始の特別企画についてだった。

2) 事業活動の拡充

① 夏祭りは、毎年恒例である白寿園との協賛にて実施した。

祭りには地域住民及びエリア利用者約2,300人の参加があり、盛大に行われた。

② 生き生き学園・自主活動の開催回数は816回で、参加者総数は4,896人だった。昨年度に比べ微増が見られたが、ゲートボールに関しては、講師の体調不良により年度途中で生き生き学園としての活動を終了している。

③ 地域で活躍している個人、団体等の作品展示の場としてミニミニギャラリーを開催している。今年度は14回開催し、5月に開催された「らーめん屋のおやじの鉛筆画展」は毎日新聞等に掲載されたこともあり、多くの鑑賞者が訪れ好評だった。また、「佐々木ひでお 秋の口筆画展」は鑑賞者の感動を呼び、11月、1月と2回開催された。

④ 各種スポーツ大会においては、エリア杯グラウンド・ゴルフ大会、ゲートボール大会、スマイルボウリング大会や秋の祭典スポーツイベントとして卓球大会を開催した。8回開催し、460人の参加があった。それぞれのスポーツにおいて冬季間の健康作りの場として愛好者が増加し、自主活動が盛んに行われている。

⑤ 地域福祉推進活動として、県指定の「介護職員初任者研修」(19人)、県社会福祉協議会との共催による高校生対象の「福祉セミナー&進路ガイダンス」(9高校 26人)、県リハビリセンターとの共催による「リハビリ健康教室」を実施した。同教室には施設入所者22人、地域住民5人の参加があった。その他、福祉車両貸出しを継続して実施している。(利用件数 28件、利用延べ日数 42日)施設入所者の外出、病院からの一時外出時に利用されるが多かった。

- ⑥ ボランティア活動については、横手市社会福祉協議会と連携を図り、活動日数15日、58人の活動があった。

3) 施設設備

- ① サプライエエネルギーセンター機械室内給湯ヘッダーの更新工事が地域振興局工事として施行された。

給湯ヘッダーの腐食による漏水が発生し溶接修理を行ったが、今後、溶接工事は不可能との指摘を受けたため更新を行った。

(工事日 2月24日及び3月10日)

- ② コミュニティセンター及び屋内プール内空調換気扇更新工事が地域振興局工事として施行された。

(工事期間 1月27日～3月24日)

4) その他

- ① 電気料金の値上げに向けて施設全体で節電に取り組み、一定の効果が得られた。
- ② 「介護員養成研修」から「介護職員初任者研修」に制度が変更になったことから、36人の募集に対し、19人の受講申し込みであり大幅に定員を下回った。次年度は、広報における工夫や中身の充実により、受講者増に取り組むこととしている。
- ③ 3エリア協同による営業・広報戦略の一環として合同の視察研修を実施した。ホームページ・プロモーションビデオの作成については、業者と検討を重ね計画通り進めることができた。
- ④ はじめての試みとして、「エリア秋の祭典」とスポーツフェスタを同時に開催したことで、スポーツ少年団、親子連れ等新規の顧客獲得につながった。
- ⑤ 「のぼり旗」を作成し、エリア前の沿道に設置して宣伝効果を高め、集客を図った。

○世代間交流及び利用の促進

平成25年度の総利用者数は98,022人で前年度比1,563人の減、全体としては、有料部門1,432人の増、無料部門2,995人の減となった。

世代間交流事業として、夏・冬の親子チャレンジ教室を39回実施し、参加者数は632人だった。今後も継続する事業なので、参加率を上げるため内容の充実とより効果的な広報活動に努めていく。

○居宅支援センター

1) 居宅介護支援事業所については、エリア入居者に加えて地域住民の利用も増え、現在登録者は67人。市町村依頼により48件の介護認定に係る訪問調査を実施した。

(要介護者総数649人 要支援者総数184人 計833人利用)

2) 訪問介護事業・介護予防訪問介護事業所については、平成23年8月より特定事業所加算Ⅱが算定されている。また、平成24年度介護報酬改定により利用者の住居と同一建物に所在する事業所に対する評価の適正化により一割の減算となっている。エリア入居者中心の利用で、延べ利用者数が月平均787人、サービスの向上を目指し計画的、効率的な運営に努めた。

(訪問介護サービス利用 9,443件)

介護関連事業においては、ヘルパー13人体制に対して8月から1人の欠員となっているが、早朝、夜間のサービスの提供を含め、利用者のニーズに対応できるよう努力している。

3) 配食サービスについては、平成21年度より横手市から受託しているが、利用者の皆さんからは大変好評を得ている。一人暮らしの高齢者の安否確認という目的もあり、重要な事業の一つとなっている。

○入居施設

1) 養護老人ホーム

利用者の平均年齢が81.2歳と高齢化が進み、全体的に心身の機能低下が進んできている。また、認知症の方が年々増えてきており、一人ひとりの状態に応じた個別支援計画の作成と、居住環境の整備、訪問介護、訪問リハビリ等の利用について都度、本人や家族に情報提供し、安全な日常生活が送られるよう支援に努めた。

また、日中および夜間においても生活に不安を抱える利用者が多くなっており、訪室等の回数を増やすなどして生活状況の把握と事故の未然防止、体調等の変化に速やかに対応することにより、継続的に安全な生活の確保に努めた。

日中の活動として、誰でも気軽に参加できるクラブ内容の充実に努めると共に、居室に閉じこもりがちな利用者については、個別に参加を呼び掛け、必要な利用者には移動支援を行うなどしながら、個別支援の充実と生活リズムを整え支援に努めた。「健康体操」(25回実施延べ人数470人)、「音楽クラブ」(24回実施延べ人数714人)、「ごきげんクラブ」(12回実施延べ人数168人)を開催し、実施回数61回、参加延べ人数1,352人であった。「ごきげんクラブ」は隔週になり回数は減ったが、1回の参加者数は昨年とほぼ同数となり、他は昨年を上回った。

居宅支援センターと連携をとることにより各種行事への参加、ショッピング等外出支援を安全に行うことができ、潤いと変化のある生活支援に努めた。

保健・医療面では利用者の高齢化に伴い、毎日のバイタルチェックと疾病が重症化しないよう嘱託医と連携し、定期診察、定期健診、医療相談などを行い、利用者の不安解消に努めた。

感染症予防については、インフルエンザ予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため、利用者会議等多くの機会を活用して注意喚起し、インフルエンザ、ノロウイルスの罹患者はなかった。

防災については総合防災訓練で食糧の備蓄、暖房器具・防災グッズ等の運び出しを行うなど、備蓄を確認し災害時に備えた。施設では日中、夜間勤務体制での避難訓練を行い、有事の際の適切な対応等職員の危機意識を高めるための避難訓練を実施した。

平成26年3月31日現在 利用者 48名

要介護認定者 27名

要支援認定者 9名

ヘルパー利用 30名

平成25年度 入所者 8名

退所者 9名

(他施設入所5名 長期入院2名 死亡2名)

2) 軽費老人ホーム

利用者の平均年齢が81.6歳であり、高齢化と共に心身の機能低下が著しく、日常生活に不安を抱える利用者が増えている現状にあり、介護度の重度化により、対応できなくなった方、亡くなった方と退所があり、7名の欠員となっている状況である。利用促進として県南市町村及び地域包括支援センター、居宅事業所等への広報活動を積極的に行った他、関東地区大森ふるさと会、北海道県人会会員等へ施設の情報を提供、広報活動を実施し、入居者の確保に努めた。

利用者個々のニーズに基づいた個別支援計画を作成すると共に、利用者の状況に応じた介護保険サービスを活用した居住環境の整備や、訪問介護サービス等の利用の紹介により、安全な日常生活が継続的に送られるよう支援に努めた。

また、体調不良等により一時的に日常生活に困難が生じた場合、利用者が希望するサービス（特別提供サービス）を有償で提供することにより、施設生活が継続できるよう努めた。

保健面では定期健康診断や健康相談を実施し、協力医療機関との連携により、高齢による疾病の重症化の未然防止と体調把握により不安の解消に努めた。

身体機能の維持については、健康体操や専門講師による「元気ハツラツ教室」を開催し、介護予防についての啓蒙活動に努めた。

感染症予防については、インフルエンザ予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため談話会等、多くの機会を活用して注意喚起したが、平成25年度は、3名のインフルエンザ罹患者が発生した。

平成26年3月31日現在、利用者数43名

(個室1室、2人部屋3室が空室)

要介護認定者	10名
要支援認定者	20名
介護保険サービス利用者	18名
平成25年度 入所者数	5名
退去者数	5名 (他施設 4名、死亡1名)

3) 老人専用マンション

利用者の平均年齢が84.6歳と高年齢化と共に、支援を必要とする利用者が増加傾向にあるため、必要な時に介護サービスを速やかに利用できるよう適時生活相談に応じるとともに、介護保険サービスの情報提供に努めた。また、市町村及び居宅介護支援事業所、訪問介護事業所等関係機関と連携し、介護サービスの導入と福祉用具の活用等により、生活の質の向上に努めたが、1名の退去(死亡1名)があった。介護保険サービス利用者は5名と介護度も高くなるなど、将来の自分の身の振り方、施設の運営に不安を持っている方が多い。

健康面については、随時健康相談等を実施し病気に対する不安の解消に努めるとに、定期健康診断等により病気の早期発見と協力医療機関との連携により病気の重症化の回避に努めた。

また、感染症予防として利用者の健康と清潔な生活環境の維持に努めるとともに、インフルエンザの予防接種を実施したほか、利用者の予防意識を高めるため、談話会等多くの機会を活用して注意喚起した。インフルエンザ等感染症の罹患者はなかった。

また、心身機能の低下予防として外出援助の機会を増やすとともに、健康体操の実施と地域や当エリアで開催している生きがい・健康づくり活動等への積極的な参加を促し、生きがい活動につなげた。また、新たなマンション独自の活動として「陽だまりタイム」と称し、月2回コーラスを楽しむ時間を設定し交流を図る機会を設けた。

利用促進については、近隣市町村及び地域包括支援センター等の関係機関や、関東地区大森ふるさと会会員等へ施設の情報を提供し、広報活動を実施し入居者の確保に努めた。

平成26年3月31現在 利用者数 16名 (個室1室、夫婦部屋3室が空室)

入所者数	0名
退去者数	1名 (死亡1名)
要介護認定者	3名
要支援認定者	4名
介護保険サービス利用者	5名

○衛生・安全対策

防災関係では、年2回の総合防災訓練を実施し、互助協力体制の必要性、重要性を職員・入居者ともに、体感しながら地元消防署の立ち会いのもと実施した。また、常設AEDについては、定期的に点検を実施した。

震災に備え、事業団全体の緊急一斉メール送信の訓練を行った。当エリアでは防災体制等の見直しを行ったほか、電力事情や大規模災害・停電を想定し、食糧の備蓄、暖房機・防寒具・防災グッズ等の在庫確認を行った。

今冬季も積雪が多く、職員による雪下ろしや道路の除雪、避難路の確保に努めた。

設備関係については、プールや浴場も含めて点検等を怠ることなく、利用者や入居者の安全に配慮した。

○苦情解決処理

コミュニティセンターにおいては、顧客満足度調査等による意見・要望については16件あり、速やかな回答に努め館内に掲示し周知した。

居宅支援センターにおいては、毎月現任研修を実施し職員間の連携を強化し、サービスの向上に努めている。また、3月には苦情解決状況報告会を開催し、顧客満足度調査等の結果を報告するとともに、第三者委員から適切な助言を得ることができた。

平成25年度南部老人福祉総合エリア利用状況(前年度比較)

1. コミュニティセンター等利用状況

※単位:人

区分	年間合計(人)		比較増減	
	平成25年度	平成24年度		
有料	休憩泊	12,442	11,735	707
	会議室	905	878	27
	屋内運動広場	1,184	622	562
	プール	5,904	6,098	△ 194
	セット券	6,231	6,172	59
	自主事業	639	666	△ 27
	計	5,356	5,058	298
無料	屋内運動広場	32,661	31,229	1,432
	各種自主事業等	26,031	28,514	△ 2,483
	その他事業	9,832	7,736	2,096
	視察等	29,045	31,602	△ 2,557
	計	453	504	△ 51
合計	65,361	68,356	△ 2,995	
合計	98,022	99,585	△ 1,563	

2. コミュニティセンター各種自主事業参加状況

※単位:人 ()内は開催回数

区分	有料	平成25年度		平成24年度		比較増減
		人数	回数	人数	回数	
趣味活動	有料	お茶会	126 (11)	95 (12)	31 (△ 1)	
		華道	94 (11)	107 (12)	△ 13 (△ 1)	
		コーラス	111 (12)	69 (12)	42 (0)	
		囲碁	212 (42)	251 (42)	△ 39 (0)	
小計		543 (76)	522 (78)	21 (△ 2)		
健康づくり活動	有料	太極拳	142 (12)	124 (12)	18 (0)	
		水中運動	119 (22)	71 (16)	48 (6)	
		ゲートボール	83 (10)	69 (10)	14 (0)	
		レクスポ	425 (24)	317 (21)	108 (3)	
		卓球	272 (23)	283 (22)	△ 11 (1)	
		ヨガ	110 (23)	91 (24)	19 (△ 1)	
		ベビースイミング	25 (12)	16 (6)	9 (6)	
水泳教室・各種教室		1,068 (358)	1,133 (146)	△ 65 (212)		
小計		2,244 (484)	2,104 (257)	140 (227)		
講座・講演	有料	なつメロ	535 (12)	412 (10)	123 (2)	
		移動講座	61 (2)	61 (2)	0 (0)	
		テーブルコーディネート	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
小計		596 (14)	473 (12)	123 (2)		
創作活動	有料	陶芸	880 (170)	919 (149)	△ 39 (21)	
		民芸	382 (39)	363 (37)	19 (2)	
		木工	47 (21)	55 (21)	△ 8 (0)	
		料理	204 (12)	163 (11)	41 (1)	
小計		1,513 (242)	1,500 (218)	13 (24)		
教室		4,896 (816)	4,599 (565)	297 (251)		
各種大会		460 (8)	459 (8)	1 (0)		
自主事業(有料)合計		5,356 (824)	5,058 (573)	298 (251)		

自主事業(無料)

区分	平成25年度	平成24年度	比較増減	
映写会	1,095 (48)	1,486 (41)	△ 391 (7)	
生きがい創作館	2,355	2,051	304	
イベント・研修等	6,382	4,199	2,183	
合計	9,832	7,736	2,096	
その他事業	生きがい交流広場	627	1,144	△ 517
	ふれあいセンター	24,345	27,258	△ 2,913
	西部トレセン	4,073	3,200	873
合計	29,045	31,602	△ 2,557	

3. 過去5年間の利用状況の推移

※単位:人

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
コミュニティセンター等の利用者数	118,663	118,376	118,296	99,585	98,022
コミュニティセンター利用者数(横手市除く)	85,881	86,551	84,789	69,127	69,604

その他

区分	平成25年度	平成24年度	比較増減
チャレンジ教室	632	612	20
ポイントカード	172	168	4
無料開放	460 (2)	309 (1)	151 (1)

利用実績状況調

平成26年3月31日現在

【養護老人ホーム】

市町村		区分		合 計
		男	女	
県内市	横手市	15	32	47
	湯沢市		1	1
	小 計	15	33	48
県内町村				
	小 計	0	0	0
県外	小 計			0
合 計		15	33	48

【軽費老人ホーム】

市町村		区分		合 計
		男	女	
県内市	北秋田市			0
	秋田市		2	2
	横手市	9	8	17
	湯沢市	2	4	6
	大仙市	1	1	2
	仙北市	1		1
	由利本荘市		1	1
	にかほ市		1	1
	小 計	13	17	30
県内町村	美郷町	1	1	2
	羽後町	3	3	6
	小 計	4	4	8
県外	小 計	3	2	5
合 計		20	23	43

【老人専用マンション】

市町村		区分		合 計
		男	女	
県内市	秋田市		1	1
	横手市	1	7	8
	湯沢市	1	1	2
	大仙市		1	1
	由利本荘市		1	1
	小 計	2	11	13
県内町村	美郷町		1	1
	羽後町	1	1	2
	小 計	1	2	3
県外	小 計			0
合 計		3	13	16

(4) 秋田県高清水園

○施設運営の概要

1) 利用状況

入所利用については、成人男子1名・児童には、動きがなかった。昼間サービスである生活介護は定員52名に対し昨年度より5名増の68名、自立訓練が定員8名に対し4名の利用であった。生活訓練の利用は、昨年より2名減となっている。日中活動系サービスには、通所で14名の利用があった。児童においては、経過的生活介護・施設入所支援が各23名、指定障害児入所施設が10名、措置が2名となった。その中で児童女子寮では、増設のケアホーム「こまち」へ3名、自宅復帰のため1名が退所という動きがあった。成人女子寮においても、ケアホーム「こまち」へ1名移行している。また、特別支援学校の卒業により、学齢児の在籍率は昨年度より下がっている。尚、待機者登録者数は、今年度、成人男子26名、成人女子6名、児童男子4名、児童女子0名となっている。

2) 地域生活

ケアホーム設立準備委員会等で検討を重ね、10月1日ケアホーム「こまち」を開設した。「こまち」が加わり「あおぞら」「彩」のケアホーム3棟とグループホーム「結」「さくら」「みのり」3棟で入居者29名の支援を行なった。ケアホーム「こまち」については定員を満たすことができず、今年度末現在で2名の欠員を生じており、関係機関へ働きかけを継続している。

ケアホーム「あおぞら」グループホーム「結」「さくら」「みのり」は、夜間体制強化のため、防災及び緊急時における警備業務委託契約を締結した。

3) 相談支援事業の進捗

一般相談支援事業に加えて特定相談支援事業と障害児相談支援事業の業務を遂行した。昨年度から継続して利用している方の更新等の見直しも適宜行った。

サービス等利用計画は、本人・家族が各関係機関（福祉施設・相談機関・特別支援学校）から当相談支援事業所を紹介され、サービス等利用計画とモニタリングを105件実施する。その他、相談支援業務は、来所によるものや電話及び訪問等で、業務をこなしきれない状況にあった。9月からは、秋田市障がい者総合支援協議会が開催され、委員として参加している。

4) 経営改善計画の推進

前年度に引き続き経営改善推進委員会を中心に、全職員に対し無駄の削減を呼び掛け、光熱水費の削減の意識付けを図り、結果的に削減に結びついた昨年度の数値を維持することができた。

昨年10月に女子のケアホームを1棟開設したが、定員を満たすことができなかった。

かったため、今後、安定した運営に向け、早急な課題として取り組まなければならない。

昨年12月より障害者1名を園内の清掃業務従事者としてパート雇用し、日常業務の改善及び障害者雇用率を高めることにつなげた。

○施設支援

成人棟の利用状況は、生活介護68名、生活訓練については、年度当初6名から9月と3月に各1名ずつ生活訓練が終了となり生活介護に移行している。施設入所は男子利用者が4月に1名入所、女子利用者が10月にケアホームこまち開設に伴い1名移行し、58名となっている。生活介護に関しては、上限を超える利用状況である。日中活動については週5日、畑作業・環境整備・軽作業・創作（パズル、刺し子）・運動レク等によるグループ活動（6グループ編成）を計画したが、年間を通して度重なる感染症により寮閉鎖等で定期的な実施には至らない現状であった。活動場所が作業棟になっているグループにおいては、作業棟が別棟のため一度外に出なければならず、転倒の危険性が高いことなどから冬期間の活動が制限された。

児童棟については、栗田養護学校へ10名が就学しており、学級担任との年2回（春、秋）の面談や必要に応じて適時面談のほか、年3回の学校・施設連絡会の実施、スクールバス運行委員会等を通じて連携を図った。また困難なケースについては、児童相談所等を交えてケース検討会を実施した。年齢超過児に対しては、成人棟の6グループ活動に参加して日課の活性化や、生活環境の改善を図った。広汎性発達障害を持つ利用者に対しては、個室の設置等に配慮をした。

児童福祉法の改正により児童施設においては、経過的生活介護・経過施設入所支援（25名：平成25年7月17日家庭復帰1名退所、10月1日ケアホームこまち開設に伴い移行者3名除く）、指定障害児入所施設（8名）、措置（2名）となった。また、将来的な児童施設のあり方について、検討会議を行っている。

ヒヤリ・ハット（事故）報告に関しては、誤薬に関する報告が多いことから、誤薬ゼロ運動を行い、誤薬防止に努めた。誤薬予防月間及び誤薬チェックを複数回実施すると共に、チェックする職員、チェックされる職員は全職員で行うような取り組みやチェックする部分をピンポイントで行い、危険な部分はどこかを探ることに努めた。また、職員自身が服薬する人、される人を体験することで、自身の服薬支援が利用者にとって安心なものかどうかということを確認し合った。今後も誤薬については、職員の慣れによる再発を防ぐような取り組みを行うこととしている。誤薬の他に、利用者同士のトラブルから発生する怪我也多く、利用者の行動把握及び精神安定に向けた取り組みを検討するとともに、障害者虐待防止法制定に伴い「安全確保の動作制限」についても、切迫性・非代替性・一時性の3原則について再確認しながら一層の改善に取り組んだ。

○居宅支援・その他の委託事業

短期入所・日中一時支援事業では、在宅支援の一環として利用を希望する障害児者の積極的な受け入れに努めた。日中一時利用は契約件数も増えている。短期利用については、昨年度短期利用をしていた成人男子利用者が入所となり、延べ人数が29人減少している。

日中一時支援事業放課後支援型については、利用人数が毎年増えており、現在は20名の利用がある。利用実績は、昨年度より130名程増加している。利用希望が多く、年度途中での緊急の申し込みなどにも対応した。

共同生活援助事業については、男子1棟、女子2棟の合計3棟を運営しており、日中活動として就労9名、就労継続支援B型事業所利用等を含めて14名が地域生活をしている。

共同生活介護事業では、男子1棟、女子2棟の合計3棟15名で運営しており、そのうち当園の日中活動利用者は、生活介護7名、生活訓練4名となっている。入居者の送迎業務について、朝は地域支援課職員、夕方は管理課職員を加え輪番で安全に実施した。感染症発生の際は、支援課等との交流を避け各ホーム、作業棟、手芸室で対応し感染防止を図った。

(平成26年3月31日現在)

事業名	男	女	合計
地域生活支援事業			
短期入所	83名	20名	103名
日中一時支援	149名	73名	222名
共同生活援助事業 (GH)	5名	9名	14名
共同生活介護事業 (CH)	6名	9名	15名
相談支援事業	38名	39名	77名
その他委託事業			
養護学校児童生徒放課後生活支援事業	1,554名	324名	1,878名

共同生活援助事業、共同生活介護事業（入居者数）以外については、延べ人数

○健康管理

感染症の流行期に入る前に看護師による研修会や市の保健所から講師を招いての研修会を実施し、園内の衛生管理に努めるとともに、来園者に対して消毒やマスクの着用を呼びかけ、園内への菌の流入防止に努めた。しかし、1月上旬から下旬にかけて、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が集団発生し、秋田市保健所の立ち入り指導を受けた。最終的に罹患者は32名（利用者25名、職員7名）を数えたが、重篤な症状の方はおらず、短期間で回復される方がほとんどであった。インフルエンザは、グループホームで生活している方2名の罹患はあったも

の、園内での罹患者はなく、集団発生には至らなかった。

その他、12月に業務用で大型の加湿器を生活スペースへ設置し、感染症予防に努めた。

○地域交流・社会参加

園行事（夏祭り）には、ボランティア21名を受け入れた。以前に比べ、応募が少ない状況ではあるが、ボランティアセンターや短大・専門学校へ依頼し、学生を中心に人数を確保した。（運動会は感染症発症の為に中止となった）また、毎月2回の補修ボランティアについては延べ人数が41名となっている。

実習生は、依頼7校、人数46名、延べ日数191日という実績である。

地域との交流に関しては、恒例となっていた上北手小学校との秋田蔦の刈り取り交流会は、一昨年秋田蔦がネズミによる食害にあったため、昨年度に引き続き中止となった。現在蔦の成長も悪く、秋田蔦の手入れを指導いただく方がいない状態である。上北手地区レクリエーション大会へは例年どおり参加し、地域の方々と交流を深めた。施設機能の提供についても、グラウンド、体育館の利用があり、体育館においては、スポーツ少年団（ミニバスケットボール）からの依頼などに幅広く提供した。

○苦情解決処理

苦情受付件数は13件で、昨年と比較すると3倍近く件数が増えているが、実際に家族からの苦情として受け付けた件数は少なく、園側で改善するべきと判断して取り上げた件数の方が多かった。その主な原因が家族とのコミュニケーション不足と職員間での情報共有不足となっており、職員の対応の見直しを図り、その内容を部署で周知し、家族へ説明することで同意を得ている。その他、グループホーム入居者の地域住民に対しての迷惑行為については、今後もありえることから、普段からの地域の警察署とのコミュニケーションが大切であることを第三者委員から助言を受けている。

また、毎月実施している「なんでも相談」も前年に引き続き実施し、利用者から17件の相談があった。内容は質問や要望がほとんどであったが、利用者が自分の意見が言える場として、今後も継続して行くこととする。

市 町 村 別 利 用 状 況

平成26年3月31日

【施設入所:成人】定員60名

市町村	区分	男 女 別		合計
		男	女	
県内市	秋田市	19	11	30
	北秋田市	0	0	0
	潟上市	3	1	4
	能代市	1	0	1
	横手市	1	0	1
	大館市	0	0	0
	由利本荘市	3	1	4
	男鹿市	3	1	4
	大仙市	2	2	4
	湯沢市	1	0	1
	仙北市	1	3	4
	小計	34	19	53
	県内町村	五城目町	0	1
八郎潟町		1	0	1
美郷町		1	1	2
八峰町		0	1	1
小計		2	3	5
県外		0	0	0
	小計	0	0	0
合計		36	22	58

【施設入所:児童】定員40名

市町村	区分	男 女 別		合計
		男	女	
県内市	秋田市	17	7	24
	北秋田市	0	0	0
	潟上市	2	0	2
	能代市	0	1	1
	横手市	0	0	0
	大館市	0	0	0
	由利本荘市	2	1	3
	男鹿市	1	1	2
	大仙市	2	0	2
	湯沢市	0	0	0
	仙北市	1	0	1
	小計	25	10	35
	県内町村		0	0
		0	0	0
		0	0	0
		0	0	0
小計		0	0	0
県外		0	0	0
	小計	0	0	0
合計		25	10	35

【通所利用者】

区分	男	女	計
生活介護	4	6	10
生活訓練	0	4	4
合計	4	10	14

※児童施設の就学児数

学年	男	女	計
小学部	0	0	0
中学部	0	2	2
高等部	6	2	8
合計	6	4	10

通学校:栗田養護学校

【グループホーム:定員14名/ケアホーム:定員17(現員15)名】

市町村	結 (GH)	みのり (GH)	さくら (GH)	あおぞら (CH)	彩 (CH)	こまち (CH)	計
	女	男	女	男	女	女	
秋田市	2		1	2	4	2	11
由利本荘市			2		1		3
男鹿市	1	2				1	4
仙北市				2			2
大仙市				1		1	2
横手市			1				1
潟上市		1					1
美郷町	2						2
五城目町				1			1
井川町		2					2
合計	5	5	4	6	5	4	29

(5) 秋田県心身障害者コロニー

○施設運営の概要

1) 利用状況

入所利用については、退所者20名（長期入院2名、家庭復帰1名、死亡17名）に対し、新規入所者は2名であった。生活介護、自立（生活）訓練、就労継続支援B型事業の通所利用者は71名で、そのうち新規利用者が6名である。

2) 地域生活支援

平成24年度末に新規にケアホーム1棟を立ち上げ、平成25年度はグループホーム7棟、ケアホーム8棟計72名の利用者が地域生活を送っている。

地域生活者の支援体制の充実に向け、地域生活サポートセンター職員を9名から10名と1名増員し、さらに夜間支援については宿直員の配置（ケアホーム）やホームセキュリティの業務委託（グループホーム）、夜間のホーム巡回、携帯電話の24時間対応等で安心・安全の確保に努めた。

3) 就労支援

就労継続支援B型事業では、製パン、木工、窯業、園芸、果樹・畜産の作業種目で事業を展開した。

製パンでは、原材料の高騰により給食への納品分の約5%の値上げを余儀なくされたが、更に原材料の価格が上がっている状況にある。販売については固定客が多く一定の売り上げが確保されている。

木工では、スノーボールの発注を県地域振興局等より受け、前年度に近い数量の製品を納品することができた。

各作業種目において利用者の高齢化が顕著であり、体調等に留意しながら作業を進めている。

目標工賃達成に向け販売促進に努めた結果、利用者一人あたりの月額平均工賃は、昨年の実績を上回る18,325円であった。

4) 高齢化への対応

高齢化対策検討委員会では、定期的に高齢化実態調査を実施している。平成26年3月31日現在の高齢化率（65歳以上）は49.4%で、75歳以上も20.5%と高い水準となっている。

介護予防の取り組みとして、運動プログラムの継続活用による転倒防止や除圧マットの導入による褥瘡予防など高齢化対策を実施した。

今年度診療所において、高齢に伴う肺炎や老衰等により看取った利用者は13名であった。

5) 経営改善計画の推進

毎月の委員会をとおして、取り組みの進捗状況を全職員に周知し、経営改善の推進を図った。サービス利用の向上については、利用者アンケートの結果分析から課題を設け、改善に向け全課（所）で取り組んだ。

○施設支援

平成25年度末の利用者は、生活介護405名、就労継続支援B型61名、自立（生活）訓練8名、施設入所支援399名である。

○居宅支援・その他の受託事業

由利本荘・にかほ圏域の在宅障害児（者）の知的障害者短期入所事業延べ利用日数605日、日中一時支援事業の延べ利用日数222日であった。

障害児等療育支援事業では、由利本荘市・にかほ市の子育て支援担当課と連携を図りながら、療育技術指導等を実施した。

相談支援事業については、新たに由利本荘市から基幹相談支援センター事業を受託し、地域の相談支援の拠点として活動を展開した。地域で生活する障害者や家族に対し、相談支援専門員による障害福祉サービスの連絡・調整やサービス等利用計画の作成を実施した。

障害者就業・生活支援センター事業では、地域在住の障害者の就労支援、生活支援を実施し、相談件数は前年度並みの月平均190件余りに対応したほか、今年度は15名の就労と22件の実習受け入れと前年度を上回ることができた。

また、由利本荘市障害者自立支援協議会の委員として会議等に積極的に参加し、他サービス機関との連携を図った。

(平成26年3月31日現在)

事業名		男	女	計
地域生活支援事業				
	短期入所事業(者)	349名	188名	537名
	短期入所事業(児)	68名	0名	68名
	日中一時支援事業	202名	20名	222名
	共同生活援助事業(GH)	22名	13名	35名
	共同生活介護事業(CH)	19名	18名	37名

その他の委託事業		件数	登録者数
	障害児等療育支援事業	144件	—
	基幹相談支援センター事業 (由利本荘市)	2,021件	—
	障害者就業・生活支援センター事業	2,324件	166名

共同生活援助事業、共同生活介護事業（入居者数）以外については、延人数

○健康管理

診療所を中心に、診療や健診による疾病の早期発見、早期治療に努めた。インフルエンザワクチンや職員へのタミフル予防投与など種々の感染症対策を行い、開成支援課でインフルエンザに1名が罹患したが感染拡大は防ぐことができた。また、体温調節が困難で低体温や熱中症を起こすケースが増加しており、平成25年度は特に熱中症が52件発生し前年度を上回った。一層の適切な室温・湿度管理が必要である。

○地域交流・社会参加

主要行事であるコロニー祭、夏祭りではボランティアの確保が難しく配置人員の調整等を行ったが、定期的な活動団体によるボランティアはスムーズに行われた。実習・研修では、学生を中心に14件108名を受け入れた。

地域住民への施設機能の提供としては、体育館155件、延べ1,300名の利用があった。

○苦情解決

今年度の苦情受付総件数は10件で、サービス内容に関するものが2件、説明・情報提供に関するもの2件、被害・損害に関するもの1件、権利侵害に関するもの2件、その他が3件であった。平成26年3月に、第三者委員会へ処理状況を報告し、助言を得た。

【利用者の状況】

平成26年3月31日現在

○出身市町村

【施設入所】

市町村	男 女 別		計
	男	女	
秋田市	38	33	71
北秋田市	0	1	1
潟上市	6	2	8
能代市	11	11	22
横手市	22	26	48
大館市	1	1	2
由利本荘市	54	51	105
男鹿市	10	8	18
湯沢市	6	8	14
大仙市	19	11	30
仙北市	6	3	9
にかほ市	14	13	27
藤里町	1	1	2
三種町	3	6	9
五城目町	2	1	3
八郎潟町	1	1	2
井川町	1	1	2
美郷町	5	6	11
羽後町	3	6	9
東成瀬村	2	1	3
小計	205	191	396

市町村	男 女 別		計
	男	女	
川口市	0	0	0
秦野市	0	1	1
柏市	1	0	1
足立区	1	0	1
小計	2	1	3

	男 女 別		計
	男	女	
合 計	207	192	399

【共同生活援助】

市町村	GH	わかまつ	やすらぎ	そよかぜ	わかば	しおさい	はまなす	まつかぜ	計
		男	男	女	女	女	男	男	
秋田市				1	1	1	1		4
北秋田市									
潟上市									
能代市								2	2
横手市		1	1				1		3
大館市									
由利本荘市		3	1	1	1	2		1	9
男鹿市			1			1			2
湯沢市		1	1			1	1	1	5
大仙市			1						1
仙北市									
にかほ市		1		1					2
藤里町									
三種町									
五城目町			1	1					2
八郎潟町									
井川町									
美郷町					2		1	2	5
羽後町									
東成瀬村									
合計		6	6	4	4	5	4	6	35

【共同生活介護】

市町村	CH	あおぞら	お月森	やまと	なでしこA	なでしこB	ひだまり	かもめ	はまやま	計
		男	男	男	女	女	女	男	男	
秋田市				2	1				1	4
北秋田市										
潟上市						1				1
能代市		1		1						2
横手市							1		2	3
大館市										
由利本荘市		2	2		2	2	3	3	1	15
男鹿市			1							1
湯沢市			2	1						3
大仙市						1	1	2	1	5
仙北市										
にかほ市		1								1
藤里町										
三種町										
五城目町					1	1				2
八郎潟町										
井川町										
美郷町										
羽後町										
東成瀬村										
合計		4	5	4	4	5	5	5	5	37

【診療所】

		年度	2 1 年度	2 2 年度	2 3 年度	2 4 年度	2 5 年度	
医 科	診療日数		242日	243日	242日	241日	240日	
	受診者数		5,239人	5,201人	5,142人	5,011人	4,739人	
	延べ 利用者 数	入所者		17,715人	18,560人	17,660人	15,398人	14,058人
		その他		357人	387人	427人	497人	470人
		計		18,072人	18,947人	18,087人	15,895人	14,528人
歯 科	診療日数		87日	82日	78日	76日	78日	
	受診者数		493人	471人	444人	404人	394人	
	延べ 利用者 数	入所者		924人	857人	835人	690人	719人
		その他		14人	19人	3人	3人	11人
		計		938人	876人	838人	693人	730人
計	診療日数		329日	325日	320日	317日	318日	
	受診者数		5,732人	5,672人	5,586人	5,415人	5,133人	
	延べ 利用者 数	入所者		18,639人	19,417人	18,495人	16,088人	14,777人
		その他		371人	406人	430人	500人	481人
		計		19,010人	19,823人	18,925人	16,588人	15,258人

(6) 地域生活支援センターみずばやし

○施設運営の概要

1) 利用状況

利用率については、宿泊型自立訓練（定員10名）が96.6%、グループホーム（6棟・定員28名）が98%（入院者1名）、ケアホーム（4棟・定員20名）が89%（入院者5名、うち1名は長期入院）であった。

日中活動サービスの提供日について、従来、平日の提供だったものを祝日も実施することで稼働日数が昨年度よりも増加し（254日→258日）、季節に応じた各種イベントなどの機会を提供することで利用率の向上につなげることができた。

就労継続支援B型事業（1日の利用定員14名）については、在宅利用者が体験利用をした結果、新規の利用契約（1名）に繋がった。平成26年3月末現在、登録者27名で、利用率は102%となっている。

自立訓練（生活訓練）（定員6名）については、平均利用率が46.6%と前年同様に低かった。3月初旬に利用者1名の死亡により利用契約解除となったが、新たに在宅利用者1名の新規利用契約があり、現在、登録者5名となっている。ただ、登録者の中には、他事業所のサービスを併用したり、福祉的な就労をしている利用者があるため、年間を通じて利用実績が低い結果となった。

相談支援事業については、サービス等利用計画の作成が60件、モニタリングが46件であった。

2) 地域生活支援

宿泊型自立訓練の利用者については、地域生活に必要な指導・訓練、支援を行いながら地域生活移行を検討してきたが、建築基準法等に適したホーム増設等が難しい状況で移行先の目途が立たず、標準利用期間（2年）を1年間延長することとなった。

グループホーム等の利用者については、就労先への定期的な訪問等により、利用者個々の状況を把握しながら、職場定着に繋げた。居住環境については、建物の老朽化等により整備が必要な部分については、大家と連絡を取りながら迅速に対応した。

夜間支援については、各ホーム（10箇所）に業務委託による防災システムを導入し、24時間対応で夜間及び緊急時における支援体制の強化を図った。

アパートで自立生活している9名（旧水林通勤寮及びグループホームの退居者）の相談・支援も引き続き行った。

3) 就労支援

就労継続支援B型事業においては、ネーム刺繍を主な作業種目としているが、委託作業の開拓にも努め、灯籠・おみくじ折りの他、新たに遊具キット箱詰め作業やカプセル製作等を取り入れた。平均月額支給工賃については、利用者は増加したものの作業収入が伸びず4,300円と前年(5,300円)に比べ減少した。

障害者就業・生活支援センターとの連携で、地域から通っている就労継続支援B型事業利用者のうち1名が障害者就職面接会に参加し、一般就労を前提とした実習に繋がった。また、宿泊型自立訓練利用者の雇用事業所と連絡調整を密にすることで、職場定着を図ることができた。

4) 経営改善計画の推進

サービスの利用率向上や各種加算（就労B重度者支援体制加算Ⅰ、グループホーム夜間防災・緊急時支援体制加算Ⅰ）により、みずばやし本体事業及びグループホーム・ケアホームの増収を図ることができた。

職員会議等で光熱水費の使用状況等を情報提供し、節約への意識付けを図り経費削減に努めたが、猛暑・寒冷等により使用頻度が前年度をやや上回った。

ガソリン・灯油・パソコン・一部食材については、コロニーとの共同購入でコストダウンが図られた。

○施設支援

宿泊型自立訓練利用者が、自信と希望を持って地域で社会生活を送るために必要な対人関係、金銭管理、健康管理、職場定着、福祉サービスの利用等社会資源の活用に関する支援を行った。

○健康管理

宿泊型自立訓練利用者とグループホーム利用者の体調把握に努め、不調時には速やかに各医療機関を受診するなどの支援を行った。

グループホーム・ケアホーム入居者の高齢化に伴い、心身の機能低下により、通院の頻度や医療相談は増加している。今年度は利用者7名が入院した。

ノロウィルスやインフルエンザ等感染症対策については、職員会議や研修会で繰り返し手洗い・うがいの重要性を伝えた。ホーム利用者1名がインフルエンザを発症したが、感染拡大には至らなかった。

○地域交流・社会参加

近隣地域主催の行事（市主催のクリーンアップ・運動会・一斉清掃デー・盆踊り大会等）の情報を提供し、利用者の多くが地域交流を図る機会を得た。

養護学校の実習生3名と在宅障害者4名の体験利用を受け入れ、日中活動利用者と一緒に作業等を行い交流の機会を提供した。

○苦情解決

苦情受付件数は2件で、在宅利用者本人からの申し出については、真摯に受け止め、適切に対応した。地域住民から誤解を招くような迷惑行為については、地域生活でのルールとマナーを守るよう周知した。3月に第三者委員への苦情処理状況の報告会を開催した。

○利用者の状況（平成26年3月31日現在）

1. 宿泊型自立訓練利用者利用状況

区分 援護の実施者	男	女	計
秋田市	1	0	1
由利本荘市	7	0	7
大仙市	1	0	1
美郷町	1	0	1
計	10	0	10

2. 日中活動サービス（就労継続支援B型、自立訓練（生活訓練））
利用（登録）状況

区分 援護の実施者	男	女	計
秋田市	1	1	2
由利本荘市	13	5	18
にかほ市	2	0	2
湯沢市	1	0	1
能代市	1	0	1
横手市	1	0	1
大潟村	1	0	1
美郷町	2	1	3
五城目町	0	1	1
平塚市	0	1	1
大仙市	1	0	1
計	23	9	32

3. グループホーム・ケアホーム利用状況

援護の 実施者	グループホーム						ケアホーム				計		
	翼	清 和	め ぐ み	そ ら	朋	虹	三 愛 A	三 愛 B	菖 蒲	若 菜			
	男	男	女	男	男	女	男	男	男	女	男	女	合計
秋田市	0	1	2	0	1	1	0	1	0	0	3	3	6
横手市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2
由利本荘市	1	3	1	1	0	2	2	0	1	2	8	5	13
男鹿市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
湯沢市	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	4	0	4
大仙市	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	0	3
大館市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
大潟村	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2
にかほ市	2	0	0	2	0	0	0	1	1	0	6	0	6
羽後町	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	2
美郷町	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	3	1	4
五城目町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
潟上市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
平塚市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	4	5	5	5	5	4	5	5	4	5	33	14	47

(7) 秋田県阿桜園

○施設運営の概要

1) 利用状況

施設入所については、成人施設へ5名（在宅から3名・児童棟から2名）が入所となる。

生活介護は入所者67名と通所利用者8名（新規2名）を含め75名となり、生活訓練は児童加齢児が入所したことにより2名となった。児童施設では、成人棟へ2名が移行したことにより在籍42名となり、新規入所はいなかった。

2) 地域生活移行

法制度の改正に伴い、既存のグループホーム等の運営について協議を実施したほか、法人全体においてはグループホーム等の再編整備に関する検討を行った。

3) 就労支援

グループホーム男子入居者が高齢により就労活動が困難になり、生活介護事業を利用するようになった。また、グループホーム入居者の程度区分認定調査も行い、高齢化に伴う日中活動の支援計画を見直すため相談支援事業所と連携を図り取り組んできた。

4) 経営改善計画の推進

入所利用促進では、成人施設へ5名入所したことと障害程度区分の見直しにより自立支援費収入が増となった。また、通所事業の効率的な運営体制を図るために他法人事業所の視察研修などを実施し、運営形態の改善と見直しに努めた。

障害児入所施設の新体系移行計画では、児童施設利用の需要見込み等の調査から児童施設の廃止と成人入所定員40名の体系移行に計画を変更した。今後は、法人内での検討と関係機関との協議を図りながら経過期間まで策定に努める。

○施設支援

支援課成人棟利用者の状況は、施設入所支援69名、生活介護67名、生活訓練2名である。児童棟は、加齢児童2名が成人棟へ移行したことで経過的な生活介護が36名、就学児童生徒は6名となり在籍42名となった。また、高等部1名が卒業することにより、次年度は5名の就学児童となる。児童施設への入所促進に努めたが対象となる児童はいなかった。また、嗜好調査や選択メニュー希望のほか、生活環境面でのアンケート調査を実施するなど利用者ニーズの把握とサービスの改善向上に努めた。

○居宅支援・その他の委託事業

短期入所事業・日中一時支援事業においては、個別対応のケースが増えており、土日・休日の利用希望が高い傾向にあるため、受け入れ環境の充実を図り実施した。

養護学校児童生徒放課後生活支援事業は、児童生徒7名を対象に園内において実施した。障害児等療育事業では、延べ人数617名に対し、訪問療育事業46件、外来療育事業481件、療育技術指導事業7件の実施であった。

相談支援事業においては、指定計画相談支援の件数が増えており、契約者87名に対しサービス利用支援、継続サービス利用支援を実施した。

委託事業等については、ニーズへの対応を強化しながら、より効率的な運営を行うことができるよう人員体制や実施場所の見直しと改善に努めた。

重症心身障害者生活介護事業は、利用定員5名に対して平均利用が3.7名と昨年度と変わらなかったが、冬期間の利用を控えるケースが多かった。

放課後等ディサービス事業については、長期休業中の希望が多く、生活介護利用との調整を図りながら受け入れしたが、曜日によっては受け入れ困難な場合もあった。

児童発達支援事業では、問い合わせはあるが受け入れ場所や曜日の問題から利用促進には至っていない。また、医療行為を必要とする利用者が増えてきている状況から、看護師が不在の場合などは利用受け入れができないケースもあった。

[平成26年3月31日現在]

事業名		男	女	計	
地域生活支援事業					
	短期入所事業	99	33	132	
	日中一時支援事業	168	111	279	
	共同生活介護事業(CH)		5	5	
	共同生活援助事業(GH)	8		8	
	重症心身障害者(生活介護)	474(9)	383(5)	857	
	放課後等ディサービス	62(5)	18(2)	80	
	児童発達支援	0	0	0	
その他委託事業					
	障害児等療育支援事業	471	146	617	
	相談支援事業	計画相談	129	138	267
		基本相談(横手市)	137	49	186
	養護学校児童生徒放課後生活支援事業	840(5)	270(2)	1110	

* 共同生活援助・介護事業以外は延べ人数で表記、()内は登録者数

○健康管理

嘱託医や各医療機関と連携を図り、利用者の健康管理に努めた。

通院関係は、通院延べ人数1, 168名（昨年度比87減）、救急受診者18名（昨年度比2減）、付き添い職員数821名（昨年度比14減）また入院は4名（昨年度6名）、述べ入院日数95日（昨年度比27日減）であった。通院等が減少になった事由としては、嘱託医や医療機関との連携を強化し定期通院で状況が変わらない利用者については、看護師の状況報告で対処してもらうことにより、支援現場での負担軽減を図ることができた。

また、1月には利用者34名、職員9名の感染性胃腸炎集団感染が発生し、嘱託医や保健所など関係機関の助言のもと、感染拡大予防に努め重症患者を出すことなく終息することができた。

○地域交流・社会参加について

園行事の夏祭りに167名、園祭に150名の家族や地域住民を招いて利用者と楽しむ機会を設けたほか、ボランティアとの花植えや餅つき、吹奏楽演奏などで地域住民との交流を図ることができた。利用者自治会が中心の地域奉仕活動では、横手駅前やバス停の清掃活動を実施した。

○苦情解決処理について

苦情受付件数は1件(家族)で、内容はサービスの質に関するものであり、改善内容を説明し解決に至る。利用者から相談を聴く場として「何でも相談日」を毎月1回実施し、ニーズを把握している。年度末には、第三者委員への苦情報告会を開催し、状況報告と助言を得る場を設けた。

利 用 実 施 状 況 調

平成26年3月31日現在

【施設入所：成人】

市町村		区分		合計
		男	女	
県内市	横手市	21	11	32
	湯沢市	5	3	8
	大仙市	8	5	13
	仙北市	5	4	9
	小計	39	23	62
県内町村	羽後町	1	1	2
	美郷町	3	1	4
	小計	4	2	6
県外	足立区		1	1
	小計		1	1
合計		43	26	69

【施設入所：児童】

市町村		区分		合計
		男	女	
県内市	横手市	15	4	19
	湯沢市	5	2	7
	大仙市	7	1	8
	仙北市	1		1
	潟上市		1	1
	由利本荘市	1		1
	小計	29	8	37
県内町村	羽後町	2		2
	美郷町	1	1	2
	東成瀬村	1		1
	小計	4	1	5
県外				
	小計			
合計		33	9	42

【グループホーム】

市町村	希望	あさひ	計
	男	男	
横手市	2	1	3
湯沢市		1	1
由利本荘市	1		1
大仙市		1	1
美郷町	1	1	2
合計			8

【ケアホーム】

市町村	女	計
横手市	1	1
大仙市	2	2
秋田市	1	1
羽後町	1	1
合計		5

(8) やまばと園

○施設運営の概要

1) 利用状況

成人の入所利用（定員50名）については、定員どおりとなっている。

児童の入所利用（定員10名）部門では、2名欠員の8名であったが、相談支援事業及び特別支援学校や市町村担当課などの関係機関等からの情報収集や施設のPR活動により、11月に男子1名が入所し9名となった。

在宅（CH含む）からの日中活動利用者は、新たに就労継続支援事業B型で1名、生活介護事業で5名が増え18名となった。

2) 地域生活移行

男子ケアホームでは、12月末に1名が他のグループホームに移動したため1名減となったものの、2月に在宅よりケアホームに1名が入居したため、定員を充している。

また、平成26年度における新規グループホーム開設に向けて、地域移行調査を実施した。その結果、地域移行希望者が少なく平成26年度の新規開設は見合わせ、既存の2棟のケアホームを次回更新までに関係法令に適合するよう対応していくことを優先的に取り組むことにした。

3) 就労支援

稲川養護学校と連携して、高等部1名が就労継続支援事業B型を利用することとなった。

以前より一般就労していた2名については、定期的に職場訪問を行っており、職場の雰囲気にも馴染み、元気に仕事をしていることを確認した。

4) 経営改善計画の推進

財政基盤の強化として、引き続き日中活動事業の利用者の受け入れ促進を継続している。また、猛暑・大雪の1年であったが、利用者サービスに支障がない範囲内で経費節減に努めた。

また、新規通所利用者の送迎サービス等を充実させるとともに、利用者の外出機会を増やすことに努めた。

○施設支援

施設入所支援50名、生活介護56名（うち在宅10名、CH1名）、生活訓練は4名、就労継続支援B型9名（うち在宅2名、CH5名）が利用している。

施設入所支援では、55歳以上の中高年層で身体機能の低下による車イスの使用など、より介護を要する利用者が増加しており、生活介護においても利用者の高齢化等に伴う重度化が見られるなど支援内容の見直しが今後の課題となっている。

このため、今年度は成人男子トイレの床面を改修するなど、設備面で利用者

配慮した環境を整えた。

生活訓練は2名減って4名となった。就労継続支援B型事業では利用者が2名増えて9名となったが、平均工賃は月額4,233円で目標の4,000円を上回る額を支給することができた。石鹼製品の販路拡大を目指し、他施設の行事や地域イベントへ積極的に出店し、実演販売を行うなど収益アップとPR活動に努めた。

児童部門の就学児5名に対しては、特別支援学校との連携を図り、様々な活動を通して基本的な生活習慣及び社会性の向上に努めた。

○居宅支援・その他の委託事業

平成25年度も継続して湯沢市、羽後町の相談支援事業と湯沢市、羽後町、横手市の日中一時支援事業を受託したほか、新たに東成瀬村の相談支援事業及び日中一時支援事業を受託した。それにより昨年度以上に地域における在宅支援の積極的な受け入れに努めた。

短期入所・日中一時支援事業の利用では、個別対応を必要とする利用者が増加し、居室の確保や職員配置の調整を要するなど課題もみられた。

相談支援事業については、計画相談が新たな業務となったため、前年度より62件の増となった。

いずれのサービスにおいても関係機関等との調整を図りながら、利用者ニーズに沿ったサービスを目指し、柔軟な対応に努めた。

(平成26年3月31日現在)

事業名		男	女	計
地域生活支援事業				
	短期入所事業	133件	76件	209件
	日中一時支援事業	645件	42件	687件
	共同生活介護事業	5人	5人	10人
	相談支援事業	795件	114件	909件
その他の委託事業				
	障害児等療育支援事業	322件	156件	478件
	養護学校児童生徒放課後生活支援事業	722件	561件	1,283件

* 共同生活介護事業以外は延べ件数

○健康管理

嘱託医による内科検診や医療相談、医療機関での利用者の定期受診を行い、また職員健康診断の実施や産業医による職場環境の改善により、利用者と職員の健康管理に努めた。感染症に関しては昨年度の反省を踏まえ、利用者の健康状態を細かくチェックし、素早い対応をした結果、集団感染を予防することができた。

今後も感染症防止マニュアルを再確認し、利用者の受入時の健康チェック等を徹底することを全職員で確認した。

○地域交流・社会参加

園行事等には地域住民31人、ボランティア28人の参加を得たほか、天理教ボランティアとの花植え、栗拾い招待など地域住民との交流が継続された。また、湯沢市社会福祉協議会が運営する地域憩いの場の喫茶コーナーには利用者が給仕として参加し、地域住民と交流する機会となっている。社会貢献として、冬期間の除雪ボランティアの登録や稲川養護学校の環境美化運動に参加した。

実習面では、短大・専門学校など5校8名の学生を受け入れ、今後の福祉従事者の育成に努めた。

○苦情解決処理

苦情申し出件数は1件で、サービスに関する事であった。苦情委員会で内容を調査の上、申し出者へ回答し了解を得ることができた。平成26年3月には、第三者委員への報告会を開催し、助言をいただいた。

また、利用者からの何でも聞きます会を毎月1回開催し、利用者のニーズ把握と支援内容の改善に努めた。

利 用 実 施 状 況 調

平成26年3月31日現在

【施設入所：成人施設】

市町村		区分		計
		男	女	
県内 市町村	秋田市		1	1
	北秋田市			0
	潟上市			0
	能代市			0
	横手市	6	3	9
	大館市			0
	由利本荘市	2		2
	男鹿市			0
	湯沢市	14	4	18
	大仙市	1		1
	にかほ市			0
	鷹巣町	1		1
	美郷町	1		1
	羽後町	5	8	13
東成瀬村		1	1	
県外	横浜市		1	1
	伊東市	1		1
	八王子市		1	1
合 計		31	19	50

【施設入所：児童施設】

市町村		区分		計
		男	女	
県内 市町村	秋田市			0
	北秋田市			0
	潟上市			0
	能代市			0
	横手市	1		1
	大館市			0
	由利本荘市			0
	男鹿市			0
	湯沢市	4	1	5
	大仙市	1		1
	にかほ市		1	1
	鷹巣町			0
	美郷町			0
	羽後町	1		1
東成瀬村			0	
県外	横浜市			0
	伊東市			0
	八王子市			0
合 計		7	2	9

【共同生活介護（ケアホーム）】

市町村		区分		計
		ばってりー	のどか	
		男	女	
由利本荘市			1	1
湯沢市		3	2	5
にかほ市		1		1
美郷町			1	1
羽後町		1	1	2
合 計		5	5	10

(9) 秋田県身体障害者更生訓練センター

○施設運営の概要

1) 利用状況

自立訓練（機能訓練型）終了者の選択肢のひとつとして生活介護サービスを併設した結果、5名の利用者が自立訓練期間を終了して生活介護へとサービス変更を行っている状況である。

利用状況については、施設入所支援が82%、生活介護60%、自立訓練114%となっており、訓練を受けて機能を改善したいという意識の強い方が利用を希望されている現状が見て取れる。

平成25年度の新規利用者は12名、終了者は17名となっている。

2) 経営改善計画の推進

利用促進と施設の紹介を兼ねて毎年実施している県内各市町村の福祉担当課、福祉事務所、病院や地域包括支援センター等への訪問を6月と7月に実施し、11月には施設紹介のパンフレットを送付した。その結果として施設入所支援の利用者が年間を通して50人を切ることはなく、最も利用者が多い時期には56人となったこともあった。こうした結果を見ると、センターへのニーズは継続してあるものと判断することが出来、引き続き関係機関等の訪問や連絡を密にし、周知する方法を工夫しながら利用者の確保に努めて行きたいと考えている。

光熱水費については、利用者の健康に配慮しつつ、エアコンの稼働時間や設定温度の見直しを行うとともに、前月の電気使用量を職員会議で周知し、節電に関するポスター掲示等の対策を実施したが、電気料金の値上げ、機械の老朽化に伴う効率の悪さと相まって、想定した節約には至らなかった。

○施設支援

1) 自立（機能）訓練（定員30名）

嘱託医の処方及び支援計画検討会を定期的に行い、理学療法及び作業療法を中心としたリハビリテーションを実施した。

年間の利用実績は一日平均34.1名となっている。

2) 生活介護（定員40名）

生産活動と創作活動の二本立てで実施した。創作活動では、パズル、貼り絵、塗り絵、刺し子、ボルトやボールペンの組み立てを実施した。また生産活動では、フルーツキャップ、カプセル、箸入れ等を行い、生産活動参加者には収入を工賃として還元した。

しかし、利用者の重度化等の理由により定期的な出荷が出来なくなりつつあり、来年度は生産活動を中止する方向で進めている。

年間の利用実績は一日平均24.1名となっている。

3) 施設入所支援（定員60名）

入所の新規利用件数は13件、終了者数は16名であり、一年間を通して50名を割ることはなく、常に80%以上の利用率であった。

尚、年間の利用実績は一日平均49.4名となっており、昨年度よりも3名程増えている。

4) 通所支援

登録者が年度当初は25名であったが、年度末では23名と減少している。また、体調不良や入院者が多く出た影響で、一日当りの通所数は10名を切る状態にある。

行事や冬期間については、利用者の利便性を考慮して便数を増やしたり、経路の変更等をして配慮に努めた。

また、安全な運行に努めるため、10月には自動車スキッド講習を3名の職員が受講して、冬期間の安全運行に努めた。

5) 相談支援

昨年度から相談支援専門員1名による相談及びモニタリングを実施しており、件数も増加している。相談支援は48件から今年度は79件、モニタリング回数86件から134件という件数をこなしているが、年度の途中から増え続ける件数に対応すべく、新たに職員1名を兼務として配置した。

秋田市内では、障害者の半数が計画相談未実施の状況であり、相談支援専門員2名体制での対応とする予定である。

○居宅支援・その他の委託事業

利用終了者のうち2名の方が単身での高齢者住宅へ、他施設への移行が3名、家庭に戻られた方が9名となっている。

地域移行を希望される方には地域で受けられる福祉サービスの紹介を、他施設への移行を希望される方に対しては施設見学の支援を実施し、将来についての不安軽減を図った。

また、グループホームについての意識調査を実施して、その結果を基にサービスに関する情報提供を実施していくこととする。

委託事業としては、秋田市と由利本荘市から短期入所支援の委託を受けているが、年間の利用実績は延べ9件であった。

○健康管理

通院回数については、年間延人数941人と昨年度より50人近く増加しており、通院付添回数も319件と増加、更には入院回数が年間で延べ20名と昨年

度の2倍となり、利用者の重度化が進んでいる状況にある。

11月にインフルエンザ予防接種を69名の利用者が実施すると共に嘱託医による健康講話を実施し、施設内の感染症予防に努めた結果、利用者及び職員からインフルエンザ、ノロウイルス感染者の報告はなかった。

また、栄養ケア・マネジメントとして食事提供面からの健康チェック及び利用者全員を対象とした摂食・嚥下調査を実施し、その結果を基に、受診相談、嚥下体操を実施してヘルスケアサービスの更なる充実に努めた。

○地域交流・社会参加

実習生の受入れは10件 26名、ボランティア活動については4件 32名の方に来ていただいた。実習生については10名増加しており、今後も社会貢献の一環として受け入れは継続することとする。また、ボランティア活動件数は前年度と変わりなかったが、これについても継続していくこととする。

10月に嘱託医による健康講話を開催した際には、近隣の施設や町内会に対して参加を呼び掛けたが、残念ながら参加者はなかった。

しかし、地域活動の一環として今後もこうした事業に関しては広く参加を呼び掛けるとともに、地域に貢献出来る事業を模索したいと考える。

○苦情解決処理

苦情受付件数は年間10件（上半期10件、下半期0件）あり、申し出の形態は書面及び直接の申し出が4件、苦情受付箱（Uボックス）6件となっており、申し出の内容は職員の接遇2件、サービスの質2件、権利侵害1件、その他5件となっている。

出された申し出の対応については、いずれの申し出についても職員の相談援助やサービス内容の改善や利用者への協力や周知を行うことで、解決に至っている。

今後も、出された苦情については、真摯に受け止めながら、その人の身になった解決方法を見出して行きたい。

利用者状況一覽

平成26年3月31日現在

1 利用者状況

障害支援区分	区分1	0
	区分2	13
	区分3	30
	区分4	11
	区分5	8
	区分6	1
	無	10
計	73	

2 市町村別利用状況

	性別		計
	男	女	
秋田市	42	9	51
能代市	1	0	1
大館市	0	0	0
鹿角市	1	0	1
北秋田市	1	0	1
潟上市	2	0	2
男鹿市	3	0	3
由利本荘市	4	1	5
にかほ市	1	0	1
大仙市	1	0	1
横手市	2	0	2
湯沢市	1	1	2
仙北市	1	0	1
羽後町	0	0	0
小坂町	0	0	0
五城目町	1	0	1
三種町	0	0	0
美郷町	1	0	1
藤里町	0	0	0
八峰町	0	0	0
合計	62	11	73

(10) 秋田県点字図書館

○利用状況

平成25年度の個人新規登録者数は9名、登録抹消者は9名で、登録者数は706名となる。ここ数年の新規登録者は10名前後で大きな変化はないが、登録抹消は高齢によるものが目立った。新規の要因は、視覚障害者情報機器展示会での広報活動や盲学校生徒の登録によるもの等のほか、PR活動の浸透によるものと思われる。なお、団体新規登録は5団体（公共図書館）あり、登録団体数は375団体となる。

奉仕者等による施設の利用状況については、録音室（4室）の延使用者は1,315名で利用率83%、研修室の延使用者は1,925名で利用率78%である。

図書の貸出件数は9,097タイトルで、前年度を46タイトル下回っている。前年度比利用率は、点字図書16%減、デージー録音図書^(注) 1.6%増、テープ録音図書5.4%減である。点字図書の利用減少は触読利用者の高齢化によるものと思われる。全貸出数に対するそれぞれの比率は、点字図書6.4%、デージー録音図書82.7%、テープ録音図書10.9%である。

(注) デジタル規格の録音図書を「デージー録音図書」と呼ぶ。視覚障害者等のための録音図書は、著作者の許可を得ずとも作成でき、専用の再生機のみで聞くことができる。

○情報提供

- ・利用者からの資料に関する問い合わせは32件で、検索機能を活用して職員が調査し、情報を提供した。（レファレンスサービス）
- ・電話リクエストによる利用者の希望する新聞記事の読み上げを月曜日に42回実施し、84件の情報を提供した。（テレホンニュースサービス）
- ・点字、録音による「点字図書館だより」を毎月発行し、当館の新刊案内や新書の紹介、その他の様々な情報提供を行った。
- ・視覚障害者情報機器の展示会を10月に開催し、利用者や他の視覚障害者へ最新の情報機器の紹介と図書館サービス案内を行った。（参加業者 県内3社 県外3社 参加者80名）
- ・点字・音訳刊行物を延べ12,134部発行し、様々な情報を提供した。
- ・利用者から依頼を受けての図書等製作や複製等のプライベートサービスを行い、個人が必要な情報を数多く提供した。

製作（点訳101件・テープ1件・デージー30件） 複製（25件）

○図書の製作等

点字図書122タイトル(449冊)、テープ録音図書5タイトル(46巻)、
デージー録音図書97タイトル(97枚)を製作し、蔵書として受け入れた。タ
イトル数は前年度比より22パーセント(64タイトル)減少している。

25年度分の蔵書に占める当館製作率は58%、厚生労働省等からの委託図書
38%、購入0%、寄贈4%である。

○地域生活支援事業

・奉仕者養成事業

点訳・音声訳奉仕者養成講座を6月から3月まで、各30回開催した。その結
果、点訳4名、音訳5名が修了し、当館奉仕員として登録することができた。

なお、修了生は今後2年次研修を行い、資質(技術)の向上に努めていく。

・即時情報ネットワーク事業

日本盲人連合会が提供する毎日の新しい情報を点字版で9名、延べ2,177名
に、電子メールで11名、延べ2,712名に提供した。

・声の広報等発行事業

録音版の「県議会だより」を年4回、「県政だより」を年6回製作し、県議会
だよりを延べ720部、県政だより「あきたびじょん」を延べ927部発行した。
利用実人員は、306人である。

○会議等の開催

・ボランティアグループ代表者会議(4月)

・点訳奉仕者研修会

講演会「明日を夢見て」(3月)

(講師：木元千恵子氏)参加者51名

・奉仕者表彰式(11月)(理事長表彰1名 館長感謝状16名 記念賞22名)

・利用者、職員、製作ボランティア、苦情解決委員及び開催地行政担当者との懇談 会

9月：横手市 参加利用者 11名(付添者1名含む)

10月：秋田市 参加利用者 5名(付添者2名、盲導犬1)

・25年度の苦情(相談等)は無く、3月の苦情解決委員会で報告した。

○地域交流等

・「中学生の職場体験」を1回(2名)、福祉大学の学生を1回(1名)、受け入 れ、貸出・蔵書管理体験を実施した。

・夏休みの親子での点字図書館見学(2組 5名)、小学校町探検(生徒7名)、 小学校からの見学(13名)に対応し、点字への関心を深めた。

・点訳ボランティアの協力により小学校での点訳指導を行った(秋田市内2校)ほ か、音訳ボランティアの協力により、市(能代市、由利本荘市)の声の広報発行

に携わっているボランティアへの音訳指導を行った（8件）。

- ・学校、団体等の依頼により、点字器の貸出に対応した（6件）。

○公共情報への協力

- ・国、地方自治体からの公報等の点訳・音訳の依頼に応え、ボランティアの協力により点訳版、音訳版製作、発送作業を行った（11件）

○経費の節減

指定管理施設であることを自覚し、毎月の職員会議において光熱水費等の使用状況を周知するとともに、特に節電については目標を定め運営費の節減に努めた。

年間の図書受入状況

(H25. 4. 1～H26. 3. 31)

	点字図書		テープ録音図書		デージー録音図書		合計	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数	タイトル	数
厚生省委託	70	201	0	0	77	77	147	278
自館製作	122	449	5	46	97	97	224	592
複製	0	0	0	0	0	0	0	0
購入	0	0	0	0	0	0	0	0
寄贈	3	14	0	0	12	12	15	26
合計	195	664	5	46	186	186	386	896

年間の図書貸出状況

(H25. 4. 1～H26. 3. 31)

	点字図書		録音図書		デージー図書		合計		タイトル 構成比
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数	タイトル	数	
0 総記	4	10	2	6	50	50	56	66	0.6%
1 哲学	20	61	21	119	158	158	199	338	2.2%
2 歴史	13	53	45	374	157	157	215	584	2.4%
3 社会科学	29	116	52	380	182	183	263	679	2.9%
4 自然科学	32	107	29	195	205	205	266	507	2.9%
5 工学	8	29	8	41	67	67	83	137	0.9%
6 産業	3	15	5	37	18	18	26	70	0.3%
7 芸術	26	83	18	113	106	107	150	303	1.6%
8 語学	2	8	8	46	22	22	32	76	0.4%
9 文学	446	2,368	807	6,955	6,554	6,587	7,807	15,910	85.8%
合計	583	2,850	995	8,266	7,519	7,554	9,097	18,670	100%